

科目名			担当者	
国語表現（ペン習字を含む）			相澤 洋子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	<p>生活の中で手書きの文字を書く機会は、今なお多くあります。例えば、書類のサイン、手書き指定の履歴書、封筒の宛名書き、友人や家族への手紙など多様です。</p> <p>本授業の目的は、そうした状況に応じて美しい字を書くための知識と技能を獲得することです。そして、硬筆書写技能検定3級以上に合格することを目指しています。</p>
授業の概要 達成課題	<p>授業では以下の課題を達成できるように、講義と演習を組み合わせで行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の名前を美しく書くことができる</li> <li>・所定時間内に手本を参照しながら文字を美しく書くことができる</li> <li>・封筒、ハガキの宛名を美しく書くことができる</li> <li>・手書きのポスターを美しく作成できる</li> <li>・常用漢字の字体、部首名、筆順を覚えている</li> </ul>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第1週 ガイダンス  第2週 自分の名前を美しく書く  第3週 ひらがなの書き方  第4週 カタカナの書き方  第5週 楷書の書き方  第6週 行書の書き方  第7週 理論① 字体  第8週 理論② 部首  第9週 理論③ 筆順  第10週 宛名の書き方  第11週 手書きポスター作成法  第12週 硬筆書写技能検定3級模試①  第13週 実践① 所定時間内で美しい文字を書く  第14週 実践② 場面に応じて美しい文字を書く  第15週 硬筆書写技能検定3級模試②</p>	
成績評価方法	期末試験
教科書	狩田巻山『ペン字精習(上)』日本習字普及協会 日本習字普及協会編『硬筆書写技能検定3級合格のポイント』
参考書	講義の中で紹介します。
備考	字を書くのが楽しくなるような授業を心がけます。積極的な授業への参加を願います。

科目名			担当者	
医療秘書のやさしい英会話			迫 リアーン	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	英語を話す外国人の患者さんが来院した場合に必要な基礎的な英会話を学ぶ。 ※教員免許を有し、教育機関において指導経験がある教員が英会話の授業を担当する。
授業の概要 達成課題	症状の尋ね方や会計の伝え方など、実際に医療現場で行われる対話を英語で話し、コミュニケーションを深めることができる。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週 Unit1 何科を受診なさいますか？	第 16 週 Unit8 足(脚)を見せてください
第 2 週 診療科	第 17 週 医療機器と用品
第 3 週 Unit2 この用紙にご記入ください	第 18 週 Unit9 尿検査をお願いします
第 4 週 人と職名、書類	第 19 週 Unit10 X線検査室はどこですか？
第 5 週 Unit3 健康保険証はお持ちですか？	第 20 週 Column3 病院内での迷子
第 6 週 Column1 待合室で気分が悪くなる	第 21 週 Unit11 次回の受診日のご希望はありますか？
第 7 週 Unit4 どうなさいましたか？	第 22 週 Unit12 診療費は3,200円です
第 8 週 身体各部の名称	第 23 週 Unit13 1回1カプセル、1日3回、食後に
第 9 週 Unit5 どのような症状ですか？	第 24 週 薬物治療
第 10 週 代表的な症状の尋ね方	第 25 週 Unit14 副作用はありますか？
第 11 週 Unit6 いつからその症状はありますか？	第 26 週 薬に関する会話
第 12 週 現状歴の尋ね方	第 27 週 Column4 診療時間の問い合わせ
第 13 週 Unit7 今までに大きな病気をされましたか？	第 28 週 Unit15 佐々木先生にお会いしたいのですが
第 14 週 おもな病名	第 29 週 Unit16 行き方を教えていただけませんか？
第 15 週 Column2 順番待ちのクレーム	第 30 週 おわりに

成績評価方法	テストによる評価
教科書	『現場ですぐに役立つ！実践メディカル英会話』山田千夏、山田貞子 メディカ出版
参考書	
備考	

科目名			担当者	
女性未来講座			(前期)伊藤 あまね (後期)津田 真彦	非常勤 常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	無

授業の目的 と 到達目標	<p>前期は、日本の伝統文化であるいけばなを通して人間としての気持ち日本の風土等を学ぶ。 四季折々の草花を通して生きるものの表情や息づかいを感じ取り、生活空間をいかに美しく飾るかを学ぶ。 後期は、就職活動に合わせたメイク講習やテーブルマナー講習などの経験を通して、社会人としてのマナーや教養、ふさわしい立ち居振る舞いなどを学ぶ。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>植物の特徴を学び、実際に触れながら、その花の美しさをどのように引き出し、器に表現していくか学習する。小原流初等科の知識と技術を身につける。 社会人としてふさわしい食事のマナーやメイクに関する知識と技術を身につける。 自己の心身の健康に関心を持ち、栄養や運動、休養など健康を維持する方法を学ぶ。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週 第 2 週 第 3 週 第 4 週 第 5 週 第 6 週 第 7 週 第 8 週 第 9 週 第 10 週 第 11 週 第 12 週 第 13 週 第 14 週 第 15 週	花意匠の基礎 (たてるかたち)  花意匠の基礎 (かたむけるかたち)  実技テスト  花意匠の展開 (花材による変化 交互に指導) ひらくかたち まわるかたち 実技テスト	第 16 週 第 17 週 第 18 週 第 19 週 第 20 週 第 21 週 第 22 週 第 23 週 第 24 週 第 25 週 第 26 週 第 27 週 第 28 週 第 29 週 第 30 週	社会人としての装いと立ち居振る舞い 就活メイクアップ講習 食事のマナー テーブルマナー講習 (校外学習含む) ※レポート 接遇について学ぶ (校外学習含む) ※レポート " 救急救命講習 ※レポート 調理・栄養について学ぶ① " 調理・栄養について学ぶ② " ストレスについて学ぶ 心身の休息法について学ぶ " (体幹ストレッチ) " (ハンドマッサージ・アロマ)	
成績評価方法	小テスト・レポート課題 25% 実技テスト 25% 期末テスト 50% として総合的に評価する			
教科書	小原流初等科「入門カードセット」 / 小原流事業部			
参考書	授業中に適宜、配布する			
備考				

科目名			担当者	
解剖生理学 (からだの構造と機能)			金山 岳夫	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>日本医師会認定医療秘書、診療情報管理士として必要な知識（人体の部位、診断名など）の理解を目的とする。人体を構成する筋骨格、器官などの仕組みや働きについて学び、生命のいとなみを理解する。</p> <p>※医療機関に勤務し医師免許を有する教員が身体の構造と機能について講義する。</p>																																																															
授業の概要 達成課題	<p>身体を医学的に理解するために必要な、基盤となるからだの構造と機能を学ぶ。総論では「ヒトの身体を概観する」を学び、各論として「生命活動を営むしくみ」、「働き活動するしくみ」、「再生・修復、種の保存、老化などのしくみ」を学ぶ。</p>																																																															
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>																																																																
<table border="0"> <tbody> <tr> <td>第 1 週</td> <td>総論、人体の構成、生命活動の維持①</td> <td>第 16 週</td> <td>内分泌の働き①</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>総論、人体の構成、生命活動の維持②</td> <td>第 17 週</td> <td>内分泌の働き②</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>体液・血液①</td> <td>第 18 週</td> <td>感覚器（皮膚及び特殊感覚器）①</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>体液・血液②</td> <td>第 19 週</td> <td>感覚器（皮膚及び特殊感覚器）②</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>呼吸器／循環器（1）①</td> <td>第 20 週</td> <td>中枢神経 1①</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>呼吸器／循環器（1）②</td> <td>第 21 週</td> <td>中枢神経 1②</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>循環器（2）／体温①</td> <td>第 22 週</td> <td>中枢神経 2、末梢神経①</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>循環器（2）／体温②</td> <td>第 23 週</td> <td>中枢神経 2、末梢神経②</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>消化器（1）（消化管）①</td> <td>第 24 週</td> <td>運動器（骨格、骨と関節）①</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>消化器（1）（消化管）②</td> <td>第 25 週</td> <td>運動器（骨格、骨と関節）②</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>消化器（2）（肝、胆、膵、消化機能）①</td> <td>第 26 週</td> <td>運動器（筋肉）／生体リズム①</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>消化器（2）（肝、胆、膵、消化機能）②</td> <td>第 27 週</td> <td>運動器（筋肉）／生体リズム②</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>泌尿器（尿の生成、排尿）①</td> <td>第 28 週</td> <td>生殖器（ヒトの発達成長と死）①</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>泌尿器（尿の生成、排尿）②</td> <td>第 29 週</td> <td>生殖器（ヒトの発達成長と死）②</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>まとめ</td> <td>第 30 週</td> <td>まとめ</td> </tr> </tbody> </table>					第 1 週	総論、人体の構成、生命活動の維持①	第 16 週	内分泌の働き①	第 2 週	総論、人体の構成、生命活動の維持②	第 17 週	内分泌の働き②	第 3 週	体液・血液①	第 18 週	感覚器（皮膚及び特殊感覚器）①	第 4 週	体液・血液②	第 19 週	感覚器（皮膚及び特殊感覚器）②	第 5 週	呼吸器／循環器（1）①	第 20 週	中枢神経 1①	第 6 週	呼吸器／循環器（1）②	第 21 週	中枢神経 1②	第 7 週	循環器（2）／体温①	第 22 週	中枢神経 2、末梢神経①	第 8 週	循環器（2）／体温②	第 23 週	中枢神経 2、末梢神経②	第 9 週	消化器（1）（消化管）①	第 24 週	運動器（骨格、骨と関節）①	第 10 週	消化器（1）（消化管）②	第 25 週	運動器（骨格、骨と関節）②	第 11 週	消化器（2）（肝、胆、膵、消化機能）①	第 26 週	運動器（筋肉）／生体リズム①	第 12 週	消化器（2）（肝、胆、膵、消化機能）②	第 27 週	運動器（筋肉）／生体リズム②	第 13 週	泌尿器（尿の生成、排尿）①	第 28 週	生殖器（ヒトの発達成長と死）①	第 14 週	泌尿器（尿の生成、排尿）②	第 29 週	生殖器（ヒトの発達成長と死）②	第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ
第 1 週	総論、人体の構成、生命活動の維持①	第 16 週	内分泌の働き①																																																													
第 2 週	総論、人体の構成、生命活動の維持②	第 17 週	内分泌の働き②																																																													
第 3 週	体液・血液①	第 18 週	感覚器（皮膚及び特殊感覚器）①																																																													
第 4 週	体液・血液②	第 19 週	感覚器（皮膚及び特殊感覚器）②																																																													
第 5 週	呼吸器／循環器（1）①	第 20 週	中枢神経 1①																																																													
第 6 週	呼吸器／循環器（1）②	第 21 週	中枢神経 1②																																																													
第 7 週	循環器（2）／体温①	第 22 週	中枢神経 2、末梢神経①																																																													
第 8 週	循環器（2）／体温②	第 23 週	中枢神経 2、末梢神経②																																																													
第 9 週	消化器（1）（消化管）①	第 24 週	運動器（骨格、骨と関節）①																																																													
第 10 週	消化器（1）（消化管）②	第 25 週	運動器（骨格、骨と関節）②																																																													
第 11 週	消化器（2）（肝、胆、膵、消化機能）①	第 26 週	運動器（筋肉）／生体リズム①																																																													
第 12 週	消化器（2）（肝、胆、膵、消化機能）②	第 27 週	運動器（筋肉）／生体リズム②																																																													
第 13 週	泌尿器（尿の生成、排尿）①	第 28 週	生殖器（ヒトの発達成長と死）①																																																													
第 14 週	泌尿器（尿の生成、排尿）②	第 29 週	生殖器（ヒトの発達成長と死）②																																																													
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ																																																													
成績評価方法	テストによる評価																																																															
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新医療秘書講座 2「からだの構造と機能」 メジカルフレンド社</li> <li>診療情報管理士テキスト I 日本病院会</li> </ul>																																																															
参考書																																																																
備考																																																																

科目名			担当者	
薬理学 (薬の知識)			石澤 文章	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	解剖生理、臨床医学の知識に基づき、病気の治療法としての薬の人体への関わりを学ぶ。 ※医療機関に薬剤師として勤務する教員が薬の働きと人体への作用について授業を行う。
授業の概要 達成課題	医療秘書技能検定試験 3 級・2 級、日本医師会医療秘書認定試験の合格を目標に置く。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	医薬品と健康食品の違い	第 16 週	高齢者の投与について
第 2 週	医療用医薬品と一般用医薬品との違い	第 17 週	小児の投与について
第 3 週	西洋薬と漢方薬との違い	第 18 週	妊婦の投与について
第 4 週	ジェネリック医薬品とは何か	第 19 週	授乳婦の投与について
第 5 週	投与方法はなぜいろいろあるのか	第 20 週	心臓や血管に作用する薬
第 6 週	剤形の特徴は何か	第 21 週	消化器系に作用する薬
第 7 週	薬は身体の中をどのように運ばれていくのか	第 22 週	呼吸器系に作用する薬
第 8 週	服用時期はなぜいろいろあるのか	第 23 週	代謝系に作用する薬
第 9 週	薬はどのようにして効果を発揮するのか	第 24 週	感染症治療薬
第 10 週	薬の飲み合わせによる影響について	第 25 週	精神・神経に作用する薬
第 11 週	嗜好品の薬への影響①	第 26 週	がん作用する薬
第 12 週	嗜好品の薬への影響②	第 27 週	その他に作用する薬①
第 13 週	副作用について①	第 28 週	その他に作用する薬②
第 14 週	副作用について②	第 29 週	その他に作用する薬③
第 15 週	まとめ・確認・質疑応答	第 30 週	まとめ・確認・質疑応答

成績評価方法	授業内でのテスト 50% 試験 50%
教科書	・ 医療秘書講座 2 「からだの構造と機能 臨床検査と薬の知識」 メジカルフレンド社
参考書	
備考	

科目名			担当者	
患者論と医の倫理			原田 光子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	あり

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療倫理の原則と一般的各論と歴史の理解ができる。</li> <li>・患者の権利・自己決定権とインフォームドコンセントの理解ができる。</li> <li>・守秘義務やかかりつけ医の責務等各論の理解ができる。</li> <li>・リスクマネジメント・安楽死・緩和ケア等新しい医学を学ぶことができる。</li> </ul> 医療の需要者側としての患者とは何かについて、医療の供給者側として考え方を深める。 ※大学病院や福祉施設で勤務経験があり、看護師免許のある教員が患者の理解と医の倫理に関する講義を行う。
授業の概要 達成課題	患者主体の医療を提供する為に、患者心理とエンパワーメントを理解する。医療倫理・生命倫理について考察し、医療や患者を取り巻く課題について学び、日本医師会に認定医療秘書の合格を目指す。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	患者とはー病気と医療の歴史	病気の歴史	第 16 週	患者と癒し
第 2 週	患者とはー病気と医療の歴史	医療の歴史	第 17 週	医療倫理の必要性①
第 3 週	患者の心理		第 18 週	医療倫理の必要性②
第 4 週	患者の権利		第 19 週	医療倫理の必要性③
第 5 週	家族と生活		第 20 週	いのちの始まり 出生前診断の医療倫理①
第 6 週	患者と家族		第 21 週	いのちの始まり 出生前診断の医療倫理②
第 7 週	ライフステージ別特徴①		第 22 週	生殖補助医療の医療倫理
第 8 週	ライフステージ別特徴②		第 23 週	遺伝子検査の医療倫理
第 9 週	患者ー医療者関係		第 24 週	再生医療の倫理
第 10 週	ヘルスケアとは		第 25 週	脳死・臓器移植の医療倫理①
第 11 週	メディカルケアとは		第 26 週	脳死・臓器移植の医療倫理②
第 12 週	診療所とは病院とは		第 27 週	積極的安楽死・尊厳死の医療倫理
第 13 週	診療方法の違い 外来、緊急、入院		第 28 週	人生の完成段階の医療倫理
第 14 週	終末期がん患者の治療とケア 事例		第 29 週	災害時の医療倫理①
第 15 週	ケアの充実 緩和ケア、在宅医療		第 30 週	災害時の医療倫理②

成績評価方法	テストによる評価
教科書	・ 医療秘書講座 1 「健康と疾病 患者論と医の倫理」 メジカルフレンド社
参考書	
備考	

科目名			担当者	
基礎医学			金山 岳夫	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	主に内科領域及び外傷一般について学ぶ。今期では、呼吸器疾患、循環器疾患、感染症、外傷等について学び、それぞれの治療方法を理解する。 ※医療機関に勤務し医師免許を持つ教員が医学の基礎について講義する。
授業の概要 達成課題	授業を通して日本医師会認定医療秘書試験、医療秘書技能認定試験等の合格に必要な知識を修得する。
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>	
第 1 週 健康と疾病 第 2 週 診断と治療総論、感染症総論 第 3 週 感染症各論 (1) 消化器・神経系 第 4 週 感染症各論 (2) 皮膚・軟部組織、主なウイルス感染症 第 5 週 感染症各論 (3) 性感染症、ウイルス肝炎、真菌感染症、寄生虫症 第 6 週 外傷総論 第 7 週 外傷各論 (部位別 (1)) 第 8 週 外傷各論 (部位別 (2)) 第 9 週 呼吸器疾患総論、呼吸器疾患各論 (1) 肺炎、結核 第 10 週 呼吸器疾患各論 (2) 悪性腫瘍、気管支拡張症、COPD 第 11 週 呼吸器疾患各論 (3) 喘息、アレルギー疾患 第 12 週 呼吸器疾患各論 (4) 間質性肺炎、じん肺、過敏性肺臓炎 第 13 週 呼吸器疾患各論 (5) 肺水腫と胸膜疾患 第 14 週 循環器疾患総論、検査法 第 15 週 循環器疾患各論 (1) 心不全、心臓弁膜症	
成績評価方法	テストによる評価
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療情報管理士テキスト 「診療情報管理 I 基礎・医学編」 日本病院会</li> <li>医療秘書講座 1 「健康と疾病」 メジカルフレンド社</li> </ul>
参考書	
備考	

科目名			担当者	
臨床検査学			石澤 文章	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>有効な治療法を選択するために臨床検査が重要であることを理解する。            保険診療では「病気の種類や病状に応じて保険適用となる検査項目」があることを理解する。</p> <p>※薬剤師の資格を有し医療機関に勤務する教員が、治療法の選択に必要な検査に関する授業を行う。</p>
授業の概要 達成課題	日本医師会医療秘書認定試験に合格できる知識に達する。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	臨床検査の位置づけ	第 16 週	検査の体制と保険診療
第 2 週	臨床検査の目的 診断のための検査	第 17 週	検体検査 尿・糞便などの検査
第 3 週	臨床検査の目的 治療のための検査	第 18 週	検体検査 血液学的検査①
第 4 週	臨床検査の目的 経過観察のための検査	第 19 週	検体検査 血液学的検査②
第 5 週	臨床検査の目的 病気の早期発見のための検査	第 20 週	検体検査 血液学的検査③
第 6 週	臨床検査の種類 内容による分類	第 21 週	検体検査 血液学的検査④
第 7 週	臨床検査の種類 検査の行われ方による分類	第 22 週	生体検査①
第 8 週	臨床検査の種類 保険診療における基本検査と調理学のための検査	第 23 週	生体検査②
第 9 週	臨床検査の実施時に考慮すべきポイント	第 24 週	生体検査③
第 10 週	臨床検査の進め方	第 25 週	画像検査①
第 11 週	検査値の表し方と評価の基準	第 26 週	画像検査②
第 12 週	臨床検査の有用性の評価	第 27 週	画像検査③
第 13 週	検査値の影響する因子と検査前の確認事項①	第 28 週	病理検査①
第 14 週	検査値の影響する因子と検査前の確認事項①	第 29 週	病理検査②
第 15 週	検査値の影響する因子と検査前の確認事項①	第 30 週	まとめ 日本医師会試験対策

成績評価方法	授業内でのテスト 50% 試験 50%
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療秘書講座 2 「からだの構造と機能 臨床検査と薬の知識」 メジカルフレンド社</li> <li>診療情報管理士テキスト I 日本病院会</li> </ul>
参考書	
備考	

科目名			担当者	
公衆衛生学（健康と疾病）			原田 光子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	あり

授業の目的と到達目標	「健康を考え」、そして「疾病を考える」ことにより、人の一生を通じての健康上の課題を学ぶ。また、「命とは何か」を通じて生命と死についても学ぶ。さらに「環境と健康・疾病」を通じて人を取り囲む環境と人との関係性について学ぶ。 ※大学病院や福祉施設で勤務建研があり看護師免許のある教員が、公衆衛生について講義する。
授業の概要 達成課題	医療秘書並びに日本医師会認定試験受験・合格を目指す。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	健康を考える	健康とは何か	第 16 週	環境と健康・疾病	放射線による障害
第 2 週	健康を考える	健康の維持と増進	第 17 週	環境と健康・疾病	生活環境の化学的諸条件と障害
第 3 週	疾病を考える	感染症の成り立ち	第 18 週	環境と健康・疾病	空気中の有害ガス、蒸気、
第 4 週	疾病を考える	疾病の診断と治療	第 19 週	環境と健康・疾病	粒子状物質などによる障害
第 5 週	生命	生命とは	第 20 週	福祉環境とその意義	
第 6 週	生命	生命のシステム	第 21 週	小テスト	まとめ 質疑応答
第 7 週	生命	人間生存のシステム	第 22 週	健康上の課題	妊娠期・周産期
第 8 週	生命	死について	第 23 週	健康上の課題	乳児期
第 9 週	小テスト	まとめ 質疑応答	第 24 週	健康上の課題	幼児期
第 10 週	環境と健康・疾病	人間の進化と環境	第 25 週	健康上の課題	学童期
第 11 週	環境と健康・疾病	環境の因子	第 26 週	健康上の課題	思春期
第 12 週	環境と健康・疾病	病原微生物と疾患	第 27 週	健康上の課題	青年期・青壮年期
第 13 週	環境と健康・疾病	寄生虫および有害動植物と疾患	第 28 週	小テスト	まとめ 質疑応答
第 14 週	環境と健康・疾病	生活環境の物理的諸条件と障害	第 29 週	日本医師会医療秘書検定対策①	
第 15 週	小テスト	まとめ 質疑応答	第 30 週	日本医師会医療秘書検定対策②	

成績評価方法	テストによる評価
教科書	・ 最新医療秘書講座1 「健康と疾病 患者論と医の倫理」 メジカルフレンド社
参考書	
備考	

科目名			担当者	
コミュニケーション論			津田 真彦	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	30 時間	必修 1 単位	無

授業の目的 と 到達目標	<p>コミュニケーションの基礎を学ぶとともに社会人として良い人間関係を築き、より良く仕事をするためのコミュニケーション行動ができる知識と技術、態度を身に付けることを目的とする。</p> <p>《達成目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に応じたコミュニケーションの重要性と基本的な知識、技術を理解する。</li> <li>・医療機関の事務職員に期待されるコミュニケーション能力について、自己をふり返り将来医療機関に働く者としてのコミュニケーション能力を高めていく態度を身につける。</li> </ul>																																																															
授業の概要 達成課題	<p>本授業は、コミュニケーション能力が聞く、読む、見る、考える、書く、話すといった力の統合であることを踏まえ、体験を多く取り入れながら学びを深めていく。</p> <p>また、将来医療機関に働く者として多職種間の連携や、相手と良好な関係性を築くことの重要性や効果について受講者間で話し合い、考えを深めていく。</p> <p>《達成課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの目的と方法を理解する。</li> <li>・自分の感じ方や考え方の特徴を知り、適切な自己表現について考えを深める。</li> <li>・相手の気持ちに寄り添い、適切なコミュニケーション行動をとることができる。</li> </ul>																																																															
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>																																																																
<table border="0"> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション 第一印象とその効果</td> <td>第16週</td> <td>共感・アサーション</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>コミュニケーションの重要性</td> <td>第17週</td> <td>コミュニケーション技法</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>コミュニケーションの基礎知識</td> <td>第18週</td> <td>コミュニケーションワークの実際</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>言語コミュニケーション</td> <td>第19週</td> <td>授業のまとめ①</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>非言語コミュニケーション</td> <td>第20週</td> <td>コミュニケーションの実際</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>コミュニケーション能力と自己実現</td> <td>第21週</td> <td>言語コミュニケーションの留意点</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>自己表現・自己開示</td> <td>第22週</td> <td>非言語コミュニケーションの留意点</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>感情と表現</td> <td>第23週</td> <td>仕事におけるコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>感情の理解とアンガーマネジメント</td> <td>第24週</td> <td>医療機関におけるコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>価値観とコミュニケーション</td> <td>第25週</td> <td>子どもや高齢者とのコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>言語の発達とコミュニケーション</td> <td>第26週</td> <td>患者、家族の理解とコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>敬語の種類と使い方</td> <td>第27週</td> <td>障害のある方とのコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>話す（対話、会話、談話）</td> <td>第28週</td> <td>授業のまとめ② 検定対策</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>書く（メール、伝言、文章）</td> <td>第29週</td> <td>検定対策問題①</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>聞く・傾聴</td> <td>第30週</td> <td>検定対策問題②</td> </tr> </tbody> </table>					第1週	オリエンテーション 第一印象とその効果	第16週	共感・アサーション	第2週	コミュニケーションの重要性	第17週	コミュニケーション技法	第3週	コミュニケーションの基礎知識	第18週	コミュニケーションワークの実際	第4週	言語コミュニケーション	第19週	授業のまとめ①	第5週	非言語コミュニケーション	第20週	コミュニケーションの実際	第6週	コミュニケーション能力と自己実現	第21週	言語コミュニケーションの留意点	第7週	自己表現・自己開示	第22週	非言語コミュニケーションの留意点	第8週	感情と表現	第23週	仕事におけるコミュニケーション	第9週	感情の理解とアンガーマネジメント	第24週	医療機関におけるコミュニケーション	第10週	価値観とコミュニケーション	第25週	子どもや高齢者とのコミュニケーション	第11週	言語の発達とコミュニケーション	第26週	患者、家族の理解とコミュニケーション	第12週	敬語の種類と使い方	第27週	障害のある方とのコミュニケーション	第13週	話す（対話、会話、談話）	第28週	授業のまとめ② 検定対策	第14週	書く（メール、伝言、文章）	第29週	検定対策問題①	第15週	聞く・傾聴	第30週	検定対策問題②
第1週	オリエンテーション 第一印象とその効果	第16週	共感・アサーション																																																													
第2週	コミュニケーションの重要性	第17週	コミュニケーション技法																																																													
第3週	コミュニケーションの基礎知識	第18週	コミュニケーションワークの実際																																																													
第4週	言語コミュニケーション	第19週	授業のまとめ①																																																													
第5週	非言語コミュニケーション	第20週	コミュニケーションの実際																																																													
第6週	コミュニケーション能力と自己実現	第21週	言語コミュニケーションの留意点																																																													
第7週	自己表現・自己開示	第22週	非言語コミュニケーションの留意点																																																													
第8週	感情と表現	第23週	仕事におけるコミュニケーション																																																													
第9週	感情の理解とアンガーマネジメント	第24週	医療機関におけるコミュニケーション																																																													
第10週	価値観とコミュニケーション	第25週	子どもや高齢者とのコミュニケーション																																																													
第11週	言語の発達とコミュニケーション	第26週	患者、家族の理解とコミュニケーション																																																													
第12週	敬語の種類と使い方	第27週	障害のある方とのコミュニケーション																																																													
第13週	話す（対話、会話、談話）	第28週	授業のまとめ② 検定対策																																																													
第14週	書く（メール、伝言、文章）	第29週	検定対策問題①																																																													
第15週	聞く・傾聴	第30週	検定対策問題②																																																													
成績評価方法	授業内の課題（レポート・発表）各 25%、試験（前期・後期）各 25% として評価する。																																																															
教科書	医療秘書講座③ 医療に関わる用語 コミュニケーション論／ 佐藤弥 著 株式会社メジカルフレンド社／ 2020 年																																																															
参考書	参考資料等は必要に応じて配布する。																																																															
備考																																																																

科目名			担当者	
医療情報処理学			宇川 雅晴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>医事業務従事者に必要な I T 知識、並びに医療情報に関する知識について理解することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの仕組みについて理解する。</li> <li>・コンピュータネットワークの仕組みについて理解する。</li> <li>・医療情報を始めとする各種情報の取り扱いや管理について理解する。</li> <li>・医事コンピュータの運用について理解する。</li> </ul> <p>※メーカーの情報機器部門で勤務経験のある教員が、情報処理に関する授業を行う。</p>
授業の概要 達成 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルデータの表し方、コンピュータの基礎知識、ソフトウェア、ネットワーク技術、インターネット、医療情報システム、セキュリティ対策等について学ぶ。</li> <li>・医事コンピュータ技能認定試験、日本医師会医療秘書認定試験、文書処理能力検定試験等の医療情報分野の受験対策を行う。</li> </ul>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 回 ガイダンス  第 2～4 回 数値の表し方・データの表現  第 5～7 回 コンピュータの基礎知識  第 8～10 回 ソフトウェアについて  第 11～13 回 医療情報システムの基礎知識  第 14～15 回 医事コンピュータ検定対策  第 16～18 回 ワープロ用語  第 19～20 回 文書処理能力検定対策  第 21～22 回 医療と情報  第 23～26 回 診療録と診療報酬明細書  第 27～28 回 コンピュータネットワークとインターネット  第 29～30 回 情報管理・セキュリティ対策</p>	
成績評価方法	・定期試験
教科書	「改訂医事コンピュータ関連知識」建帛社 「医療秘書講座 4 医療情報処理学」メヂカルフレンド社
参考書	
備考	

科目名			担当者	
医療関係法規概論			前川 勤	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	医療関係法規を学習することにより、日本医師会医療秘書認定試験の合格を目指す。  ※裁判所等において事務次官や書記官として業務経験のある教員が医療に関する法律について授業を行う。
授業の概要 達成課題	医療関係法規を学びながら、日常的に必要とされる法的知識を身につける。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週 法規の概念	第 16 週 学校保健法
第 2 週 衛生法規	第 17 週 感染症の予防等に関する法律
第 3 週 医療法	第 18 週 予防接種法
第 4 週 医師法・歯科医師法	第 19 週 結核予防法
第 5 週 保健師助産師看護師法	第 20 週 食品衛生に関する法規
第 6 週 その他の医療関係者に関する法規	第 21 週 環境保全・公害防止に関する法規
第 7 週 薬事法・薬剤師法	第 22 週 健康保険法
第 8 週 麻薬及び向精神薬取締法	第 23 週 労働者災害補償保険法
第 9 週 地域保健法	第 24 週 年金保険・雇用保険
第 10 週 健康増進・栄養改善に関する法規	第 25 週 介護保険法
第 11 週 精神保健および精神障害者福祉に関する法律	第 26 週 生活保護法
第 12 週 精神保健福祉士法	第 27 週 自動車損害賠償保障法と最後のまとめ
第 13 週 母子保健法	第 28 週 その他の社会福祉法規
第 14 週 老人保健法	第 29 週 労働基準法・労働関係法規
第 15 週 母体保護法	第 30 週 児童福祉法・老人福祉法

成績評価方法	試験による評価
教科書	医療秘書講座4「医療関係法規概論」(メジカルフレンド社)
参考書	
備考	

科目名			担当者	
秘書概論（医療秘書概論）			北館 英里	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として必要な一般常識、マナーを理解する。</li> <li>・社会で必要とされる人材の資質を理解させ、学生から社会人へと意識の切り替えを促す。</li> <li>・一般社会の組織において必要とされ、活躍できる人材を育成する。</li> </ul>			
授業の概要 達成課題	<p>社会人として必要なビジネスマナーを学生のうちに学び日常生活に取り入れていく。ビジネスにおける様々な場面に対して適切な対応が実際にできるようになる。</p> <p>1 年時終了時には、秘書技能検定準 1 級・2 級を取得する。また、日本医師会医療秘書認定試験の合格を目指す。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週	秘書検定 2 級クイックマスター 資質 職務知識 一般常識 マナー接遇① マナー接遇② 技能① 技能② 総まとめ お茶の入れ方 お茶の出し方 電話応対① 電話応対② 電話応対③ まとめ	第 16 週	秘書検定準 1 級クイックマスター 資質 職務知識 一般常識 マナー接遇 技能 まとめ 電話応対④ 電話応対⑤ 日本医師会医療秘書検定対策 日本医師会医療秘書検定対策 日本医師会医療秘書検定対策 日本医師会医療秘書検定対策 日本医師会医療秘書検定対策 まとめ	
第 2 週		第 17 週		
第 3 週		第 18 週		
第 4 週		第 19 週		
第 5 週		第 20 週		
第 6 週		第 21 週		
第 7 週		第 22 週		
第 8 週		第 23 週		
第 9 週		第 24 週		
第 10 週		第 25 週		
第 11 週		第 26 週		
第 12 週		第 27 週		
第 13 週		第 28 週		
第 14 週		第 29 週		
第 15 週		第 30 週		
成績評価方法	テストによる評価			
教科書	「秘書検定 2 級クイックマスター」「秘書検定準 1 級クイックマスター」 「秘書検定 2 級実問題集」「秘書検定準 1 級実問題集」 財団法人実務技能検定協会 「医療秘書概論・医療秘書実務」メヂカルフレンド社			
参考書	過去問題より抜粋したプリントを使用			
備考				

科目名			担当者	
秘書実務（医療秘書実務）			北館 英里	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	120 時間	必修 4 単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として必要な一般常識、マナーを理解する。</li> <li>・社会で必要とされる人材の資質を理解させ、学生から社会人へと意識の切り替えを促す。</li> <li>・一般社会の組織において必要とされ、活躍できる人材を育成する。</li> </ul>
授業の概要 達成課題	<p>実際にスーツを着用した動作練習とともにビデオ撮影を行い、自己の様子を振り返り、接遇に必要な立居振舞いや来客応対などに必要な動作を体得する。</p> <p>1 年時終了時には、秘書技能検定準 1 級・2 級を取得する。また、日本医師会医療秘書認定試験の合格を目指す。</p>

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 回	秘書検定 2 級過去問題	第 21 回	お茶の出し方 実践	第 41 回	技能 問題演習②
第 2 回	資質 問題演	第 22 回	お茶の出し方 テスト	第 42 回	準 1 級総まとめ①
第 3 回	職務知識 問題演習	第 23 回	電話応対 ビデオ	第 43 回	準 1 級総まとめ②
第 4 回	一般知識 問題演習	第 24 回	電話応対言葉遣い	第 44 回	準 1 級総まとめ③
第 5 回	マナー接遇①	第 25 回	電話応対プリント	第 45 回	電話応対演習
第 6 回	敬語①	第 26 回	電話応対実践①	第 46 回	電話応対演習
第 7 回	敬語②	第 27 回	電話応対実践②	第 47 回	電話応対演習
第 8 回	マナー接遇②	第 28 回	電話応対伝言メモ	第 48 回	電話応対演習
第 9 回	技能①	第 29 回	電話応対 テスト①	第 49 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 10 回	慶弔	第 30 回	電話応対 テスト②	第 50 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 11 回	上書き	第 31 回	秘書検定準 1 級過去問題	第 51 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 12 回	会議	第 32 回	資質 問題演習	第 52 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 13 回	ビジネス文書	第 33 回	職務知識 問題演習	第 53 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 14 回	グラフ	第 34 回	一般知識 問題演習	第 54 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 15 回	技能②	第 35 回	マナー接遇 問題演習①	第 55 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 16 回	技能③	第 36 回	敬語 問題演習	第 56 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 17 回	2 級総まとめ①	第 37 回	マナー接遇 問題演習②	第 57 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 18 回	2 級総まとめ②	第 38 回	技能 問題演習①	第 58 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 19 回	お茶の入れ方出し方ビデオ	第 39 回	グラフ 問題演習	第 59 回	日本医師会医療秘書検定対策
第 20 回	お茶の入れ方 実践	第 40 回	ビジネス文書 問題演習	第 60 回	1 年間のまとめ

成績評価方法	テストによる評価
教科書	「秘書検定 2 級クイックマスター」「秘書検定準 1 級クイックマスター」 「秘書検定 2 級実問題集」「秘書検定準 1 級実問題集」 財団法人実務技能検定協会 「医療秘書概論・医療秘書実務」メヂカルフレンド社
参考書	過去問題より抜粋したプリントを使用
備考	

科目名			担当者	
ビジネスマナー実務			小島 郁子	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	演習	90 時間	必修 3 単位	無

授業の目的 と 到達目標	1 年次に学んだ秘書実務等の知識をもとに、社会人また医療者としてのマナー接遇や技能の実際を身につける。 ・ 社会人また医療者として必要な言葉遣いや敬語を正しく使うことができる。 ・ ビジネス文書について正しく作成することができる。 ・ 電話応対について、基本の流れを理解し取次ぎを含め受け答えができる。
授業の概要 達成 課題	社会人として必要な知識や技能、マナー接遇の獲得をめざし学んでいく。来客応対や電話応対の実技にもじっくり取り組む。 医療秘書検定前には対策を行う。他の検定の取得に関しては受験希望に合わせ演習問題に取り組む。 また、病院内における様々なケースについて考察する。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	社会人としてのマナー①	第 16 週	前期テスト解説
第 2 週	社会人としてのマナー②	第 17 週	電話対応①
第 3 週	医療者としてのマナー①	第 18 週	電話対応②
第 4 週	医療者としてのマナー②	第 19 週	電話対応③
第 5 週	秘書検定対策①	第 20 週	面接演習①
第 6 週	医療秘書検定対策①	第 21 週	面接演習②
第 7 週	医療秘書検定対策②	第 22 週	ケーススタディ①
第 8 週	医療秘書検定対策③	第 23 週	ケーススタディ②
第 9 週	お礼状の書き方	第 24 週	ケーススタディ③
第 10 週	電話のかけ方	第 25 週	ケーススタディ④
第 11 週	自己紹介の仕方	第 26 週	ケーススタディ⑤
第 12 週	敬語と言葉遣い	第 27 週	電話対応④
第 13 週	社会人としてのマナー③	第 28 週	電話対応⑤
第 14 週	医療者としてのマナー③	第 29 週	電話対応⑥
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ

成績評価方法	前期 テスト 後期 テスト
教科書	ケーススタディで学ぶ患者接遇パーフェクト・レッスン
参考書	実社会で求められるビジネスマナー、医療秘書概論・実務、秘書検定 2 級、準 1 級クイックマスター
備考	

科目名			担当者	
医療用語			石澤 文章	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	医療関係者の一員として、医療に係る共通言語を習得し、チームワークが図られるようにする。  ※薬剤師の資格を有し医療機関に勤務する教員が医療用語に関する授業を行う。
授業の概要 達成課題	医療機関で用いられている医学的日用用語を、幅広く学ぶ。 カルテ等診療情報記録書が読解でき、医療用語の略語についても学ぶ。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	皮膚の症状・診察の用語②
第 2 週	医療用語の成り立ち	第 17 週	精神の症状・診察の用語①
第 3 週	診察過程の用語	第 18 週	精神の症状・診察の用語②
第 4 週	診療録の用語	第 19 週	まとめ
第 5 週	全身の症状・診察を表す用語	第 20 週	医療保険制度の用語①
第 6 週	身体各部の症状・診察の用語	第 21 週	医療保険制度の用語②
第 7 週	頭頸部の症状・診察の用語①	第 22 週	介護と介護保険制度の用語①
第 8 週	頭頸部の症状・診察の用語②	第 23 週	介護と介護保険制度の用語②
第 9 週	腹部の症状・診察の用語①	第 24 週	医療職関連の用語①
第 10 週	腹部の症状・診察の用語②	第 25 週	医療職関連の用語②
第 11 週	神経の症状・診察の用語①	第 26 週	医療関連の用語①
第 12 週	神経の症状・診察の用語②	第 27 週	医療関連の用語②
第 13 週	周産期の症状・診察の用語①	第 28 週	年金・社会福祉の用語
第 14 週	周産期の症状・診察の用語②	第 29 週	公衆衛生の用語
第 15 週	皮膚の症状・診察の用語①	第 30 週	まとめ

成績評価方法	授業内の小テスト 50% テスト 50%
教科書	医療秘書講座 3 「医療にかかわる用語 コミュニケーション論」(メジカルフレンド社)
参考書	
備考	

科目名			担当者	
社会保険			後藤 靖子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>(目 的) 医療受付事務で取り扱う被保険者証を通して、社会保険(特に医療保険)の制度やしきみについて理解すること。</p> <p>(達成目標) 病院実習で必要な窓口実務の被保険者証の基礎知識を身につける。 医療秘書検定3級合格程度の知識を得る。(11月)</p> <p>※病院医事課勤務経験のある教員が社会保険について講義する</p>			
授業の概要 達成課題	<p>① 日本国としての医療保障制度、保険診療のしくみについて理解する。</p> <p>② 医療保険の種類と被保険者証の番号のしくみを覚える。</p> <p>③ 医療保険の給付について理解する。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	授業ガイダンス	第16週	医療秘書検定過去問対策①	
第2週	社会保険(医療保険)と診療報酬	第17週	医療秘書検定過去問対策②	
第3週	医療保険基礎用語と医療保障制度	第18週	医療秘書検定過去問対策③	
第4週	保険医療機関と保険医・保険薬剤師	第19週	医療秘書検定過去問対策④	
第5週	被保険者証の番号の仕組みと法別番号	第20週	医療秘書検定過去問対策⑤	
第6週	医療保険制度の種類	第21週	医療秘書検定問題解答解説	
第7週	患者の窓口負担金と負担金の計算方法	第22週	医療保険の現物給付①保険外併用療養費	
第8週	医療保険適用外の範囲	第23週	医療保険の現物給付②入院時食事療養費	
第9週	診療報酬の支払審査機関	第24週	医療保険の償還払い①高額療養費	
第10週	保険診療のしくみ①	第25週	公費医療①原爆・精神障害者等	
第11週	保険診療のしくみ②	第26週	公費医療②感染症法等	
第12週	医療保険の給付種類	第27週	公費医療③児童福祉法等	
第13週	前期定期試験対策①	第28週	公費医療④障害者等	
第14週	前期定期試験対策②	第29週	公費医療⑤生活保護等、地方単独公費	
第15週	前期定期試験対策③	第30週	介護保険の概要	
成績評価方法	前期定期テスト30%、後期定期テスト70%			
教科書	医事関連法の完全知識(医学通信社)			
参考書	医療秘書技能検定問題集3級①			
備考	プリントにてオリジナルノートを作成			

科目名			担当者	
労災・自賠責			後藤 靖子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2位	有

授業の目的と到達目標	<p>(目的) 医療事務で取り扱う労働者災害補償保険、自動車損害賠償責任保険の基礎知識を理解する。</p> <p>(達成目標) 医療保険との請求の違いや取扱いの注意点を理解する。</p> <p>※病院医事課勤務経験のある教員が労災・自賠責について講義する</p>
授業の概要 達成課題	窓口業務の一つとしての労災保険、自賠責保険の取り扱い方を理解し、患者さんに手続きの流れや注意点などを説明できるようになる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 労災保険とは・指定医療機関制度について</p> <p>第2週 労災保険の給付の種類・業務災害と通勤災害</p> <p>第3週 労災保険の窓口対応と全体の流れ</p> <p>第4週 労災診療費の「診療費請求内訳書」の頭書き</p> <p>第5週 第1回小テスト</p> <p>第6週 労災診療費①・診察料・外来管理加算の労災独自の考え方</p> <p>第7週 労災診療費②・医学管理料と文書料</p> <p>第8週 労災診療費③・処置料・検査料</p> <p>第9週 労災診療費④・リハビリテーション料・入院料</p> <p>第10週 労災レセプト算定例①</p> <p>第11週 労災レセプト算定例②</p> <p>第12週 第2回小テスト</p> <p>第13週 自賠責保険とは・請求の流れ</p> <p>第14週 自賠責レセプト算定例①</p> <p>第15週 第3回小テスト</p>	
成績評価方法	小テストと課題提出により評価する。
教科書	「労災診療費算定実務講座」(労災保険情報センター)
参考書	なし
備考	

科目名			担当者	
診療報酬の外来解釈			熊谷 猛	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>1. 我国の医療保険制度と保険医療機関の役割について医療機関の窓口業務を通して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保険証と診療報酬のかかわりについてその仕組みと実際について説明できる</li> </ul> <p>2. 保険医療機関の外来に関する医療費会計及び診療報酬請求についてその根拠を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本診療料：初診料、再診料及び掛かる加算について十分な説明と明細書記載ができる</li> <li>・特掲診療料：医学管理、在宅医療、検査、画像診断から投薬、注射、処置、手術、リハビリについて診療内容を理解し正確な明細書記載ができる</li> </ul> <p>※全国展開の医療法人で系列病院の医事指導の経験がある教員が、診療報酬の解釈に関する授業や病院実習の事前・事後の指導を行う</p>			
授業の概要 達成課題	<p>導入として保険証を基に患者と医療機関窓口の疑似体験をし、保険制度と医療費請求の仕組みを説明する。次に、基本診療料と特掲診療料について、簡単な医療行為の説明を加え診療の流れを理解しながら、医療費請求の根拠を詳しく解説し、正しい診療報酬明細書記載のポイントを学ぶ。後期は、医療保険請求事務実技試験や医療秘書技能検定 3 級の合格に向け基本的なポイントを理解し、検定終了後は 1 ヶ月に及ぶ病院実習に対応すべく医事業務を主に実践的な病院理解を行う。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	導入：カルテの流れと医療費請求の仕組み	第 16 週	前期定期試験の解答及び要点解説	
第 2 週	導入：医療保険制度と診療報酬のかかわり	第 17 週	特掲診療料-手術料・算定の原則と解釈	
第 3 週	基本診療料-初診料・算定の原則と解釈	第 18 週	特掲診療料-処置料・算定の原則と解釈	
第 4 週	基本診療料-再診料・算定の原則と解釈	第 19 週	処置、手術の複合症例の算定解説	
第 5 週	基本診療料の各種加算の説明	第 20 週	特掲診療料-検査料（検体検査）の導入	
第 6 週	基本診療料基礎確認テストと解答解説	第 21 週	特掲診療料-検査料（生体検査）の導入	
第 7 週	特掲診療料-投薬料の導入（薬剤の基礎）	第 22 週	医療保険請求事務実技試験対策	
第 8 週	特掲診療料-投薬料・算定の原則と解釈	第 23 週	医療秘書技能検定 3 級対策	
第 9 週	特掲診療料-注射料の導入（薬剤の基礎）	第 24 週	特掲診療料-検体検査・算定の原則と解釈	
第 10 週	特掲診療料-注射料・算定の原則と解釈	第 25 週	特掲診療料-生体検査・算定の原則と解釈	
第 11 週	投薬料・注射料の基礎確認テストと解説	第 26 週	生体検査の要点解説（年齢、回数、判断料）	
第 12 週	特掲診療料-画像診断料算定の原則と解釈	第 27 週	全範囲の基礎確認テストと解答解説	
第 13 週	特掲診療料-画像診断料算定の応用解説	第 28 週	特掲診療料-指導料、在宅医療の解釈	
第 14 週	特掲診療料-手術料の導入（縫合と切開）	第 29 週	病院実習対策総合解説 1：診療録を読む	
第 15 週	まとめ（前期範囲の総合解釈）	第 30 週	病院実習対策総合解説 2：発生源入力	
成績評価方法	<p>定期試験において評価を行う。 医療秘書検定 3 級と医療保険請求事務実技試験の合否について評価に組み入れる。</p>			
教科書	<p>医科点数表の解釈 令和 4 年 4 月版（社会保険研究所）</p>			
参考書	<p>基本診療料及び特掲診療料の投薬、注射料まではオリジナルプリントを配布し使用する。 「診療報酬の外来演習」授業時のノート、配付されたプリントも使用する。</p>			
備考	<p>授業時に配布するプリントは「診療報酬外来演習」のノートに貼付する。 電卓（ポケット電卓は不可）、定規、4 色程度のマーカー、赤ボールペンは必携。</p>			

科目名			担当者	
診療報酬の外来演習			後藤 靖子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	演習	120 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	(目的) 診療報酬を学び、医療事務に必要な基礎知識を理解する。 (到達目標) 病院実習で必要な医療事務実務の基礎知識を身につける。 医療秘書検定3級に合格する。(11月) 医療保険請求事務実技試験に合格する。(11月) ※病院医事課勤務経験のある教員が診療報酬について講義する
授業の概要 達成課題	① 医科点数表の解釈(教科書)にある基本的内容を理解する。 ② 各診療区分ごとに診療報酬明細書の記入方法を理解する。 ③ 基本演習を重ね、診療報酬明細書を一人で作成できるようになる。
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>	
第1週 (1)全体ガイダンス・診療報酬, 保険診療, 医療事務について (2)初診料の説明と問題演習	
第2週 (3)再診料・基本診療料の説明と問題演習 (4)(3)の明細書の書き方と問題演習	
第3週 (5)薬剤点数の計算方法・保険薬の種類の説明と問題演習 (6)薬剤点数計算の問題演習	
第4週 (7)投薬料の点数説明と問題演習 (8)(7)の明細書の書き方と基本問題演習	
第5週 (9)(7)の明細書の書き方と応用問題演習 (10)診療録からの明細書の書き方説明と総合問題演習①	
第6週 (11)総合問題演習② (12)総合問題演習③	
第7週 (13)小テスト直前対策(問題演習または質疑応答) (14)小テスト実施	
第8週 (15)小テスト解答と注射料説明と問題演習 (16)注射料明細書の書き方と注意する記入例と問題演習	
第9週 (17)注射料の総合問題演習① (18)注射料の総合問題演習②	
第10週 (19)処置料の点数説明と問題演習 (20)処置料明細書の書き方と問題演習	
第11週 (21)処置料の総合問題演習 (22)手術料の説明と問題演習	
第12週 (23)処置と手術の問題演習とギプス料説明と問題演習 (24)手術料の総合問題演習	
第13週 (25)尿・糞便等と血液学的検査の問題演習 (26)生化学Ⅰ～微生物学的検査の基本問題演習	
第14週 (27)病理検査の基本問題と検体検査まとめ問題 (28)検体検査総合問題演習	
第15週 (29)前期定期試験対策問題演習① (30)テスト直前対策(問題演習または質疑応答)	
第16週 (31)生体検査説明と基本問題演習 (32)検査料総合問題演習	
第17週 (33)画像診断料の説明 (34)単純撮影方法の算定方法と問題演習	
第18週 (35)単純撮影の注意する算定例と問題演習 (36)前期定期試験対策問題演習②	
第19週 (37)特殊撮影と前期の画像診断の単純撮影の復習演習問題 (38)造影剤使用撮影の説明と問題演習	
第20週 (39)第一、第二の撮影の説明と問題演習 (40)コンピューター断層撮影診断料の説明と問題演習	
第21週 (41)画像診断総合問題演習 (42)検査料の点数説明と尿・糞便等検査の基本問題演習	
第22週 (43)検定直前対策問題演習① (44)検定直前対策問題演習②	
第23週 (45)検定問題答え合わせと解説 (46)往診料説明と基本問題演習	
第24週 (47)麻酔料説明と基本問題演習 (48)全身麻酔の計算方法説明と基本問題演習	
第25週 (49)輸血料説明と基本問題演習 (50)処置・手術・麻酔・輸血まとめ問題演習	
第26週 (51)総合問題演習① (52)総合問題演習②	
第27週 (53)基本診療料の復習まとめ問題演習 (54)投薬料の復習まとめ問題演習	
第28週 (55)注射料の復習まとめ問題演習 (56)処置の復習まとめ問題演習	
第29週 (57)手術の復習まとめ問題演習 (58)検査料の復習まとめ問題演習	
第30週 (59)画像診断の復習まとめ問題演習 (60)1年まとめ問題演習	
成績評価方法	定期テスト80%と小テスト10%とノート提出10%により評価する。
教科書	医科点数表の解釈(社会保険研究所)
参考書	医療秘書技能検定問題集3級②
備考	プリントにてオリジナルノートを作成、電卓持参

科目名			担当者	
診療報酬の入院解釈			後藤 靖子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	講義	60 時間	必修 2 位	有

授業の目的と到達目標	<p>(目的) 「医科点数表の解釈」を通して、さらに深く診療報酬を理解し知識を深める。  (到達目標) 医療秘書検定 2 級(6、11 月)に合格する。  希望者は、診療報酬請求事務能力認定試験(7、12 月)に合格する。  ※病院医事課勤務経験のある教員が診療報酬について講義する</p>																																	
授業の概要 達成課題	<p>① 「医科点数表の解釈」にある入院料も含めた全体の内容を理解する。  ② 検定の文章題対策として解釈本から必要な情報を選び、読み、調べることができるようになる。  ③ 診療報酬に関する施設基準、算定条件等を解釈の本から調べることができるようになる。</p>																																	
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>																																		
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">第 1 週 入院の診察料・投薬料</td> <td style="width: 50%;">第 16 週 前期定期テスト問題の解説と解答</td> </tr> <tr> <td>第 2 週 入院の注射料・処置料</td> <td>第 17 週 文章題演習①</td> </tr> <tr> <td>第 3 週 入院の手術・輸血・麻酔料</td> <td>第 18 週 文章題演習②</td> </tr> <tr> <td>第 4 週 入院と検査料</td> <td>第 19 週 文章題演習③</td> </tr> <tr> <td>第 5 週 入院と画像診断料</td> <td>第 20 週 文章題演習④</td> </tr> <tr> <td>第 6 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策①</td> <td>第 21 週 文章題演習⑤</td> </tr> <tr> <td>第 7 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策②</td> <td>第 22 週 文章題演習⑥</td> </tr> <tr> <td>第 8 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策③</td> <td>第 23 週 文章題演習⑦</td> </tr> <tr> <td>第 9 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策④</td> <td>第 24 週 総合解釈①</td> </tr> <tr> <td>第 10 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策⑤</td> <td>第 25 週 総合解釈②</td> </tr> <tr> <td>第 11 週 医療秘書検定問題の解説と解答</td> <td>第 26 週 総合解釈③</td> </tr> <tr> <td>第 12 週 リハビリテーション料</td> <td>第 27 週 総合解釈④</td> </tr> <tr> <td>第 13 週 診察・投薬・注射の注意すべき解釈</td> <td>第 28 週 総合解釈⑤</td> </tr> <tr> <td>第 14 週 処置・検査・画像の注意すべき解釈</td> <td>第 29 週 確認テスト</td> </tr> <tr> <td>第 15 週 手術・輸血・麻酔の注意すべき解釈</td> <td>第 30 週 テスト解説と解答</td> </tr> </tbody> </table>					第 1 週 入院の診察料・投薬料	第 16 週 前期定期テスト問題の解説と解答	第 2 週 入院の注射料・処置料	第 17 週 文章題演習①	第 3 週 入院の手術・輸血・麻酔料	第 18 週 文章題演習②	第 4 週 入院と検査料	第 19 週 文章題演習③	第 5 週 入院と画像診断料	第 20 週 文章題演習④	第 6 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策①	第 21 週 文章題演習⑤	第 7 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策②	第 22 週 文章題演習⑥	第 8 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策③	第 23 週 文章題演習⑦	第 9 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策④	第 24 週 総合解釈①	第 10 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策⑤	第 25 週 総合解釈②	第 11 週 医療秘書検定問題の解説と解答	第 26 週 総合解釈③	第 12 週 リハビリテーション料	第 27 週 総合解釈④	第 13 週 診察・投薬・注射の注意すべき解釈	第 28 週 総合解釈⑤	第 14 週 処置・検査・画像の注意すべき解釈	第 29 週 確認テスト	第 15 週 手術・輸血・麻酔の注意すべき解釈	第 30 週 テスト解説と解答
第 1 週 入院の診察料・投薬料	第 16 週 前期定期テスト問題の解説と解答																																	
第 2 週 入院の注射料・処置料	第 17 週 文章題演習①																																	
第 3 週 入院の手術・輸血・麻酔料	第 18 週 文章題演習②																																	
第 4 週 入院と検査料	第 19 週 文章題演習③																																	
第 5 週 入院と画像診断料	第 20 週 文章題演習④																																	
第 6 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策①	第 21 週 文章題演習⑤																																	
第 7 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策②	第 22 週 文章題演習⑥																																	
第 8 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策③	第 23 週 文章題演習⑦																																	
第 9 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策④	第 24 週 総合解釈①																																	
第 10 週 医療秘書検定 2 級・文章題対策⑤	第 25 週 総合解釈②																																	
第 11 週 医療秘書検定問題の解説と解答	第 26 週 総合解釈③																																	
第 12 週 リハビリテーション料	第 27 週 総合解釈④																																	
第 13 週 診察・投薬・注射の注意すべき解釈	第 28 週 総合解釈⑤																																	
第 14 週 処置・検査・画像の注意すべき解釈	第 29 週 確認テスト																																	
第 15 週 手術・輸血・麻酔の注意すべき解釈	第 30 週 テスト解説と解答																																	
成績評価方法	定期テストにて評価する。																																	
教科書	医科点数表の解釈																																	
参考書	診療報酬完全攻略マニュアル(医学通信社) 医療秘書技能検定問題集 2 級②、診療報酬請求事務能力認定試験過去問題集																																	
備考	電卓持参																																	

科目名			担当者	
診療報酬の入院演習			後藤 靖子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	演習	120 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>医療保険制度、公費負担医療制度の理解の上に入院レセプト作成を完全にマスターする。卒業後の即戦力となる人材の育成を目標とする。</p> <p>※医療機関で医事関連業務、診療情報管理業務の経験を持つ教員が、医療事務関係（診療報酬、病院管理、医療文書等）の指導を行う。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>診療報酬の解釈をふまえ医療費の請求書である診療報酬明細書の作成演習を行う。6 月の医療秘書検定 2 級、12 月の診療報酬請求事務能力認定試験の取得。保険医療機関で業務ができる。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
1 外来レセプトの復習	16 医療秘書検定対策 過去問	31 入院レセプト作成	46 請求事務能力認定試験 過去問	
2 外来レセプトの復習	17 医療秘書検定対策 過去問	32 入院レセプト作成	47 請求事務能力認定試験 過去問	
3 入院料について	18 医療秘書検定対策 過去問	33 入院レセプト作成	48 請求事務能力認定試験 過去問	
4 入院料について	19 医療秘書検定対策 過去問	34 入院レセプト作成	49 請求事務能力認定試験 過去問	
5 入院基本料	20 医療秘書検定対策 過去問	35 入院レセプト作成	50 請求事務能力認定試験 過去問	
6 入院基本料	21 入院レセプト演習	36 入院レセプト作成	51 入院レセプト作成	
7 入院基本料等加算	22 入院レセプト演習	37 入院レセプト作成	52 入院レセプト作成	
8 入院基本料等加算	23 入院レセプト演習	38 入院レセプト作成	53 入院レセプト作成	
9 手術、麻酔演習	24 入院レセプト演習	39 入院レセプト作成	54 入院レセプト作成	
10 手術、麻酔演習	25 入院レセプト演習	40 請求事務能力認定試験 過去問	55 レセプト応用演習	
11 入院レセプト演習	26 入院レセプト演習	41 請求事務能力認定試験 過去問	56 レセプト応用演習	
12 入院レセプト演習	27 入院レセプト演習	42 請求事務能力認定試験 過去問	57 レセプト応用演習	
13 入院レセプト演習	28 入院レセプト演習	43 請求事務能力認定試験 過去問	58 レセプト応用演習	
14 入院レセプト演習	29 まとめ	44 請求事務能力認定試験 過去問	59 まとめ	
15 医療秘書検定対策 過去問	30 まとめ	45 請求事務能力認定試験 過去問	60 まとめ	
成績評価方法	<p>試験 (70%) 提出物 (30%)</p>			
教科書	医科点数表の解釈 (社会保険研究所)			
参考書	<p>医療秘書検定実問題集 (土屋書店) 診療報酬請求事務能力認定試験問題集 (医学通信社)</p>			
備考	例題 プリント配布			

科目名			担当者	
介護保険			齋藤 英輝	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	15時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢化社会を迎え介護の重要性が増している</li> <li>・介護保険制度について理解する (基本理念、制度の趣旨、保険者、被保険者、介護サービスの種類等)</li> <li>・介護報酬の算定ができる</li> </ul> ※医療機関で医事関連業務、診療情報管理業務の経験を持つ教員が、医療事務関係（診療報酬、病院管理、医療文書等）の指導を行う。
授業の概要 達成課題	保険制度、介護認定、サービス事業者、介護サービスの種類等を理解し、 介護度による介護報酬の算定、介護報酬の請求について基礎を学び、 介護報酬のレセプト作成ができる
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 介護保険サービスとは 第2週 介護保険制度の概要 第3週 利用手続きの流れ 第4週 介護サービスの種類とサービス事業者について 第5週 // 第6週 // 第7週 授業のまとめ 理解度確認 第8週 介護報酬の算定（介護サービスの種類ごと） 第9週 // 第10週 // 第11週 医療保険の給付と介護保険 第12週 ケアプランによる介護報酬の算定 第13週 // 第14週 // 第15週 授業のまとめ 理解度確認	
成績評価方法	定期試験での評価
教科書	なし（プリント対応）
参考書	介護報酬パーフェクトガイド(医学通信社)
備考	超高齢化社会への関心を深める

科目名			担当者	
労災・自賠責			後藤 靖子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2位	有

授業の目的 と 到達目標	(目的) 医療事務で取り扱う労働者災害補償保険、自動車損害賠償責任保険の基礎知識を理解する。 (達成目標) 医療保険との請求の違いや取扱いの注意点を理解する。 ※病院医事課勤務経験のある教員が労災・自賠責について講義する
授業の概要 達成課題	窓口業務の一つとしての労災保険、自賠責保険の取り扱い方を理解し、患者さんに手続きの流れや注意点などを説明できるようになる。
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>	
第1週 労災保険とは・指定医療機関制度について 第2週 労災保険の給付の種類・業務災害と通勤災害 第3週 労災保険の窓口対応と全体の流れ 第4週 労災診療費の「診療費請求内訳書」の頭書き 第5週 第1回小テスト 第6週 労災診療費①・診察料・外来管理加算の労災独自の考え方 第7週 労災診療費②・医学管理料と文書料 第8週 労災診療費③・処置料・検査料 第9週 労災診療費④・リハビリテーション料・入院料 第10週 労災レセプト算定例① 第11週 労災レセプト算定例② 第12週 第2回小テスト 第13週 自賠責保険とは・請求の流れ 第14週 自賠責レセプト算定例③ 第15週 第3回小テスト	
成績評価方法	小テストと課題提出により評価する。
教科書	なし
参考書	なし
備考	オリジナルプリントにて授業をおこなう

科目名			担当者	
病院実習事前指導			熊谷 猛	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	15 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>病院実習に対しての不安を払拭し、向上心を持って自己目標を達成する力を養う。 「実習をさせていただいている」という謙虚な気持ちで臨み、日常動作を常に振り返り、患者・職員に迷惑をかけることなく、積極的に行動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介・挨拶、正しい言葉遣いが確実にできる</li> <li>相手に不快を与えない実習時の服装（スーツ・白衣）・身だしなみができる</li> <li>指示の受け方・メモの励行と指示事項に関する確実な報告ができる</li> <li>日誌＝報告書として読みやすい字で簡潔に要点をまとめることができる</li> <li>問題意識を常に持ち、質問や日誌を活用して疑問、課題解決ができる</li> </ul> <p>※全国展開の医療法人の系列病院で医事指導の経験を有する教員が、診療報酬の解釈に関する授業や病院実習の事前・事後の指導を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>医療機関への就職を現実的な目標と位置付けるため、総合学習として医療機関のしくみ、接遇、保険証の理解、医療機関で使われる専門用語等を学び、また、初めての現場体験を前に不安の解消等精神面のサポートを加えながら自信をもって病院実習に臨めるよう準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病院実習に関する諸指示事項が遵守されているか</li> <li>積極的な実習を行っているか</li> </ul> <p>を軸に教員が確認を行う</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 オリエンテーション 病院実習の目的 第 2 週 実習で求められること・先輩の経験をもとにした 1 年生へのアドバイス 第 3 週 実習を行う上での不安、疑問の解消 第 4 週 挨拶「自己紹介」を通してのイメージづくり 第 5 週 接遇の基本① 第 6 週 接遇の基本② 第 7 週 診療報酬に関する用語解説 処置／手術／検査 第 8 週 診療報酬の入院料に関する基礎説明 第 9 週 窓口対応の院内専門用語 第 10 週 会計業務の院内専門用語 第 11 週 医療に関する専門用語 ① 第 12 週                    "                    ② 第 13 週 保険証の理解 社保・国保／保険者／それぞれの審査機関 第 14 週 指示の受け方と報告の仕方 第 15 週 実習日誌に関する指示事項の確認・お礼状の書き方 ；</p>	
成績評価方法	レポート作成、課題提出状況を重視した評価を行う 定期試験は実施しない
教科書	オリジナルプリントを使用
参考書	なし
備考	保険の仕組み等について「社会保険」の授業と連動している

科目名			担当者	
病院実習事後指導			熊谷 猛	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義	15 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>コロナウイルス感染拡大により 1 年時の病院実習が学内実習となった。実際の現場行動や体験等を通してのインシデント（ヒヤリハット）の分析はできないが、学内実習の範囲で改善点等を探し出す力を身に付ける。</p> <p>病院実習を実際の就職先と見立て、職場改善の意識付けを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関で働くことの意味を理解し、それを目標として各種授業に意欲的に取り組み就職先で「身近にある改善点」を見つけ解決できる。</li> </ul> <p>※全国展開の医療法人で系列病院の医事指導の経験があり、診療報酬の解釈に関する授業や病院実習の事前・事後の指導を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>病院実習の振り返りを通して自己評価を行い組織における自己の役割を客観的に理解する。診療録管理業務のあり方、医療機関の経営における診療情報の活用等について実際の医療機関の統計資料等を活用し、医療機関「中堅職員」の立場として分析を行い説明できる力を養う。併せて職場内の人間関係を理由に退職した卒業生の状況について客観的に考察する力を養う。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 「患者様」か「患者さん」か医療機関の呼称についてを考える</p> <p>第 2 週 B-S・KJにより発表内容を作成</p> <p>第 3 週 グループ発表</p> <p>第 4 週 実習を経験した先輩として「1 年生へのアドバイス」（個人レポート）</p> <p>第 5 週 病院実習中のヒヤリハット調査（項目列举）（個人レポート）</p> <p>第 6 週 医療機関に就職するための事例研究 ①就職面接口頭試問一覧</p> <p>第 7 週 " ②—内定取り消し・自己都合退職の先輩たち—</p> <p>第 8 週 期待される医事課員 ①ヒヤリハット調査：看護部長編・事務部長編</p> <p>第 9 週 " ②薬剤集計 をどう読むか</p> <p>第 10 週 課題作成（個人レポート）</p> <p>第 11 週 " ③診療行為別集計 をどう読むか（説明）</p> <p>第 12 週 B-S・KJにより発表内容を作成</p> <p>第 13 週 グループ発表</p> <p>第 14 週 外来患者数統計（日当点・件当点・件日数）の見方（説明）</p> <p>第 15 週 " （前年同月比による具体的改善方策（説明）</p>	
成績評価方法	<p>課題レポートの班発表を重視した評価を行う。</p> <p>定期試験は実施しない</p>
教科書	オリジナルプリントを使用
参考書	なし
備考	発表は 1 年時の学内実習班ごとに B-S・KJ 法にて行う

科目名			担当者	
病院実習			津田 真彦	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	実習	135 時間	必修 3 単位	

授業の目的と到達目標	学校で学んだ知識や理論を基に、実際に病院で行われている医療がどのような仕組みのもとに行われているか、診療や業務等病院全体の流れの中で各部門がいかに機能し、連携しているのか、特にその中でも医療事務の役割・責務等を、実践的な体験を通して把握することを目的とする。
授業の概要 達成課題	各自の出身地域で病院実習を3～4週間行う。窓口での患者対応やカルテの運搬、会計などを経験し、医療事務の流れや医事課と他部署の連携も理解しながら、病院現場の実務を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
【実習内容例】	
1 日目 院内見学 カルテ庫実習	11 日目 病名登録実習
2 日目 受付業務実習	12 日目 会計業務実習
3 日目 薬剤科実習	13 日目 健診センター
4 日目 総務課実習	14 日目 放射線科実習
5 日目 受付業務実習	15 日目 会計業務実習 まとめ
6 日目 業務実習	
7 日目 カルテ庫実習	
8 日目 入院病棟関連業務	
9 日目 病名登録実習	
10 日目 受付業務実習 カルテ庫実習	
成績評価方法	提出物・医療機関からの評価に基づく総合評価
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
Microsoft Office 演習			津田 真彦	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	90 時間	必修 3 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MS－EXCELの基礎的な利用方法を理解する。</li> <li>・業務において有効な、応用的な活用方法を理解する。</li> <li>・サーティファイ EXCEL 検定 3 級の合格を目指す</li> <li>・Microsoft Office 応用的な連携方法を理解する。</li> </ul> ※企業にて情報システム管理の経験がある教員が演習授業を指導する。			
授業の概要 達成課題	Microsoft Office 応用的な利用方法を理解させた後、主に MS-EXCEL を利用し、効果的なデータ集計方法を学ぶ。 また、目標としてサーティファイ EXCEL 検定 3 級の合格を目指す。			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週	授業全体の内容の概要, アンケート	第 16 週	右, 中央, 両端揃え, 左インデント	
第 2 週	キーボード表での説明, ホームポジションの練習	第 17 週	アンダーライン, 書式のフォント	
第 3 週	ホームポジションの復習, 人差し指の練習	第 18 週	印刷の方法, 規則説明	
第 4 週	文字入力の基本, 中指の練習	第 19 週	右インデント, ぶらさげインデント	
第 5 週	トレーニング Lesson 1~3, 薬指, 小指の練習	第 20 週	表の挿入, 表の構成, 罫線	
第 6 週	基礎トレーニング, 簡単キーレッスン	第 21 週	表の編集, 速度練習問題	
第 7 週	基礎トレーニング, Lesson 6	第 22 週	基礎問題 (入力, 印刷)	
第 8 週	基礎トレーニング, Lesson 7, ひらがな変換	第 23 週	均等割付, 試験対策 (3 級)	
第 9 週	BS, DEL の違い, 漢字の変換, 選択, 確定	第 24 週	Excel の基礎操作	
第 10 週	変換中の訂正, 単語入力	第 25 週	Excel データの入力	
第 11 週	文の入力の仕方 (文節変換)	第 26 週	Excel 計算式・関数	
第 12 週	単語入力, 文章入力, 総合タイピングトレーニング	第 27 週	Excel 関数応用	
第 13 週	簡単な編集 (削除, 挿入, 訂正等)	第 28 週	Excel 表の装飾	
第 14 週	簡単な編集の問題, 範囲指定 (文字, 行, 段)	第 29 週	Excel グラフ作成	
第 15 週	カーソルの効率の良い動かし方	第 30 週	Excel 総合演習	
成績評価方法	授業の中での課題 40% テスト 60%			
教科書	サーティファイ EXCEL 問題集 3 級			
参考書				
備考				

科目名			担当者	
Microsoft Office 応用演習			津田 真彦	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MS－EXCELの基礎的な利用方法を理解する。</li> <li>・業務において有効かつ応用的な活用方法を理解する。</li> <li>・サーティファイ EXCEL 検定 3 級の合格を目指す</li> <li>・Microsoft Office の応用的な連携方法を理解する。</li> </ul> ※企業にて情報システム管理の経験がある教員が演習授業を指導する。
授業の概要 達成課題	Microsoft Office の応用的な利用方法を理解させた後、主に MS-EXCEL を利用し、効果的なデータ集計方法を学ぶ。 また、目標としてサーティファイ EXCEL 検定 3 級の合格を目指す。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	イントロダクション・アンケート
第 2 週	Excel の基礎操作①
第 3 週	Excel の基礎操作②
第 4 週	Excel の基礎操作③
第 5 週	Excel の基礎操作④
第 6 週	Excel データの入力①
第 7 週	Excel データの入力②
第 8 週	Excel データの入力③
第 9 週	Excel 計算式・関数①
第 10 週	Excel 計算式・関数②
第 11 週	Excel 計算式・関数③
第 12 週	Excel 計算式・関数④
第 13 週	Excel 計算式・関数⑤
第 14 週	総合演習
第 15 週	課題作成
第 16 週	Excel 関数応用①
第 17 週	Excel 関数応用②
第 18 週	Excel 関数応用③
第 19 週	Excel 関数応用④
第 20 週	Excel 表の装飾①
第 21 週	Excel 表の装飾②
第 22 週	Excel 表の装飾③
第 23 週	Excel グラフ作成①
第 24 週	Excel グラフ作成②
第 25 週	Excel グラフ作成③
第 26 週	Excel 総合演習
第 27 週	MS-office の連携①
第 28 週	MS-office の連携②
第 29 週	MS-office の連携③
第 30 週	総合演習・課題作成・まとめ
成績評価方法	授業の中での課題 40% テスト 60%
教科書	サーティファイ EXCEL 問題集 3 級
参考書	
備考	

科目名			担当者	
医事コンピュータ演習			小島 郁子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>診療報酬で学んだ知識と医事コンピュータで演習した知識を結びつけ、医療事務の基礎的な業務を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者登録について、正確に素早い登録ができる。</li> <li>病名登録について、正確に素早い登録ができる。</li> <li>外来窓口会計について、正確に入力ができる。</li> </ul>
授業の概要 達成課題	<p>病院窓口の業務を想像しながら患者登録、病名登録、外来窓口会計を順に学んでいく。窓口会計の入力では、常に診療報酬で学んだ知識を確認しながら入力し、後半は手書きと同じようにレセプトが作成できるようにする。</p>

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	授業概要、検定の内容日程説明、患者登録	第 16 週	前期テストの返却と答え合わせ、検定筆記過去問題
第 2 週	患者登録、訂正、病名登録、照会	第 17 週	検定筆記過去問題、実技過去問題演習
第 3 週	患者登録、訂正、病名登録、訂正、外来窓口会計	第 18 週	検定筆記過去問題、実技過去問題演習
第 4 週	患者登録、病名登録、外来窓口会計、訂正	第 19 週	検定筆記過去問題、実技過去問題演習
第 5 週	患者登録、病名登録、外来窓口会計、訂正	第 20 週	実技過去問題演習
第 6 週	患者登録、病名登録、外来窓口会計、訂正、請求書と明細書	第 21 週	実技過去問題演習
第 7 週	患者登録、病名登録、外来窓口会計、レセプトイメージ	第 22 週	実技過去問題演習
第 8 週	患者登録、病名登録、外来窓口会計、時間外	第 23 週	実技過去問題演習
第 9 週	患者登録、病名登録、外来窓口会計、複数日の入力、DO入力	第 24 週	演習問題
第 10 週	患者登録、病名登録、外来窓口会計、レセプト作成	第 25 週	演習問題
第 11 週	カルテ演習問題レセプト作成	第 26 週	演習問題
第 12 週	カルテ演習問題レセプト作成	第 27 週	演習問題
第 13 週	カルテ演習問題レセプト作成	第 28 週	演習問題
第 14 週	カルテ演習問題レセプト作成	第 29 週	演習問題
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ

成績評価方法	<p>全授業の 3 分の 2 以上出席すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>期末に実技テストを行う（点数本、プリント、ノート持ち込み可）</li> </ul>
教科書	なし
参考書	なし。演習問題のプリントを配付。授業の後半は、「医科点数表の解釈」を使用。
備考	授業中の私語は禁じるが、演習中周囲と教えあうことはおおいに望ましい。毎回の、ノートやプリントをファイリングし持参すること。

科目名			担当者	
医事コンピュータ応用演習			小島 郁子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>診療報酬で学んだ知識を基に、コンピュータを用いた医療事務の実務的な業務を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者登録について、正確に素早い登録ができる。</li> <li>病名登録について、正確に素早い登録ができる。</li> <li>窓口会計について、正確に素早い入力ができる。</li> <li>入院登録について正確に入力することができる。</li> </ul>			
授業の概要達成課題	<p>1 年次に学んだ患者登録、病名登録、外来窓口会計の復習をしながら順に学んでいく。窓口会計の入力では、常に診療報酬で学んだ知識を確認しながら入力し、正確でしかも素早くレセプトが作成できるようにする。 医事コンピュータ技能検定の取得を目指す。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週	ガイダンス、検定内容説明、筆記過去問題演習	第 16 週	前期テスト答え合わせ	
第 2 週	筆記過去問題演習、実技過去問題演習	第 17 週	演習問題レセプト作成	
第 3 週	筆記過去問題演習、実技過去問題演習	第 18 週	演習問題レセプト作成	
第 4 週	筆記過去問題演習、実技過去問題演習	第 19 週	演習問題レセプト作成	
第 5 週	筆記過去問題演習、実技過去問題演習	第 20 週	演習問題レセプト作成	
第 6 週	実技過去問題演習	第 21 週	演習問題レセプト作成	
第 7 週	実技過去問題演習	第 22 週	演習問題レセプト作成	
第 8 週	実技過去問題演習	第 23 週	演習問題レセプト作成	
第 9 週	実技過去問題演習	第 24 週	入院登録、入院会計	
第 10 週	実技過去問題演習	第 25 週	入院登録、入院会計	
第 11 週	演習問題レセプト作成	第 26 週	演習問題レセプト作成	
第 12 週	院外調剤、演習問題レセプト作成	第 27 週	演習問題レセプト作成	
第 13 週	演習問題レセプト作成	第 28 週	演習問題レセプト作成	
第 14 週	演習問題レセプト作成	第 29 週	演習問題レセプト作成	
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ	
成績評価方法	<p>全授業の 3 分の 2 以上出席すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>期末に実技テストを行う（点数本、ノート、プリント持込可）</li> <li>提出物（レセプト）はすべて提出すること</li> </ul>			
教科書	なし			
参考書	なし。演習問題のプリントを配付。「医科点数表の解釈」を使用。			
備考	授業中の私語は禁じるが、演習中周囲と教えあうことはおおいに望ましい。毎回の、ノートやプリントをファイリングし役立てて欲しい。			

科目名			担当者	
病院管理学			齋藤 英輝	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>病院の歴史について知る。病院の組織構成について知る。病院の運営管理について知る。</p> <p>病院の組織の運営管理について学び、実践時に役立つ知識を備える。</p> <p>※医療機関で医事関連業務、診療情報管理業務の経験を持つ教員が、医療事務関係（診療報酬、病院管理、医療文書等）の指導を行う。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>病院の歴史・発展、組織構成や運営管理について学ぶ。また、病院組織の様々な部門について知り、協力して実践できるようにする。</p> <p>病院で業務を遂行していくための基礎知識について学び理解する。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週	オリエンテーション、医療と病院	第 16 週	前期の復習	
第 2 週	病院の発達	第 17 週	病院管理の発展①	
第 3 週	病院の形態と種類	第 18 週	病院管理の発展②	
第 4 週	病院の目的と機能	第 19 週	病院管理の方法①	
第 5 週	診療部門	第 20 週	病院管理の方法②	
第 6 週	看護部門	第 21 週	病院管理の方法③	
第 7 週	診療技術部門	第 22 週	病院管理の評価	
第 8 週	薬剤部門	第 23 週	病院の組織①	
第 9 週	栄養給食部門	第 24 週	病院の組織②	
第 10 週	地域連携・相談	第 25 週	病院の組織③	
第 11 週	事務部門①	第 26 週	病院における人間関係①	
第 12 週	事務部門②	第 27 週	病院における人間関係②	
第 13 週	施設管理・環境整備部門	第 28 週	病院会計①	
第 14 週	医療関連感染の予防	第 29 週	病院会計②	
第 15 週	前期まとめ	第 30 週	後期まとめ	
成績評価方法	<p>下記の配分で評価を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 (70%)</li> <li>・提出物 (30%)</li> </ul>			
教科書	『病院管理』田島誠一・高橋淑郎編著、建帛社、2017 年 11 月発行			
参考書				
備考				

科目名			担当者	
コーディング			佐々木 恵美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	演習	60 時間	選択 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>疾病、傷害および死因統計分類提要（ICD-10）を使い、病名にコードをつける。またその必要性を学ぶ。</p> <p>※医療機関において医事業務、診療情報管理業務の経験を有する教員がコーディングに関する授業を行う。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>単一の病名には簡単にコード付けが出来るようになること。 また、カルテより主病名や追加コードを付けられるようになる。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週	ICD-10 の使い方	第 16 週	外因①	
第 2 週	コーディング演習基礎①	第 17 週	外因②	
第 3 週	コーディング演習基礎②	第 18 週	薬物	
第 4 週	コーディング演習基礎③	第 19 週	コーディング演習複合①	
第 5 週	コーディング演習基礎④	第 20 週	コーディング演習複合②	
第 6 週	ダブルコーディング	第 21 週	コーディング演習複合③	
第 7 週	新生物①	第 22 週	コーディング演習複合④	
第 8 週	新生物②	第 23 週	コーディング演習複合⑤	
第 9 週	コーディング演習応用①	第 24 週	コーディング演習複合⑥	
第 10 週	コーディング演習応用②	第 25 週	コーディング演習複合⑦	
第 11 週	コーディング演習応用③	第 26 週	コーディング演習複合⑧	
第 12 週	コーディング演習応用④	第 27 週	コーディング演習複合⑨	
第 13 週	コーディング演習応用⑤	第 28 週	コーディング演習複合⑩	
第 14 週	コーディング演習応用⑥	第 29 週	コーディング演習複合⑪	
第 15 週	コーディング演習応用⑦	第 30 週	コーディング演習複合⑫	
成績評価方法	テストによる評価			
教科書	疾病、傷害および死因統計分類提要（ICD-10）		第 2 巻 第 3 巻	
参考書				
備考				

科目名			担当者	
レセプト点検			後藤 靖子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講 義	60 時間	選択 4 単位	有

授業の目的と到達目標	1 年及び2 年次で学んだ診療報酬の総まとめとして、レセプトを点検する実務的な知識と技術を修得することを目的とする。  ※医療機関において医事関連業務、診療情報管理業務の経験を持つ教員がレセプト業務に関する指導を行う。
授業の概要達成課題	レセプト請求精度の向上力を養うために、様々なレセプト事例を中心に点検技術を習得し、医療機関での即戦力となる育成を行う。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週	授業概要、目的などの説明	第16週	レセプト点検の実際②（基本診療料）
第2週	1 年次で学んだ診療報酬の復習①	第17週	レセプト点検の実際③（基本診療料）
第3週	1 年次で学んだ診療報酬の復習②	第18週	レセプト点検の実際④（特掲診療料）
第4週	1 年次で学んだ診療報酬の復習③	第19週	レセプト点検の実際⑤（特掲診療料）
第5週	2 年次で学んだ診療報酬の復習④	第20週	レセプト点検の実際⑥（特掲診療料）
第6週	2 年次で学んだ診療報酬の復習⑤	第21週	レセプト点検の実際⑦（特掲診療料）
第7週	2 年次で学んだ診療報酬の復習⑥	第22週	レセプト点検の実際⑧（特掲診療料）
第8週	保険請求の流れ	第23週	総合演習①
第9週	療養担当規則	第24週	総合演習②
第10週	事務点検のポイント	第25週	総合演習③
第11週	医師点検依頼のポイント	第26週	総合演習④
第12週	高額レセプトの注意点	第27週	総合演習⑤
第13週	総括・編綴	第28週	総合演習⑥
第14週	返戻・査定	第29週	総合演習⑦
第15週	レセプト点検の実際①（基本診療料）	第30週	まとめ

成績評価方法	試験による評価
教科書	医科点数表の解釈（社会保険研究所）、プリント配布
参考書	
備考	教科書、電卓を持参すること

科目名			担当者	
医療文書作成			齋藤 英輝	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義	60 時間	選択 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>文書の種類作成目的を理解する。カルテを読み取り作成能力を得る。            医師事務作業補助者の能力も兼ね備えた医療事務者として、            就職した際の即戦力となる人材育成を目標とする。</p> <p>※医療機関で医事関連業務、診療情報管理業務の経験を持つ教員が医療事務に関する医療文書作成の授業を行う。</p>
授業の概要 達成課題	<p>各種文書作成演習をすることにより、医療用語を理解し、カルテから診療内容が正確に想像でき、医療全般に対する理解能力向上できるよう授業展開する。            文書の種類を知り、それを正確に理解でき、作成もできる。</p>

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

1	文書作成能力の必要性について	16	診療情報提供書作成
2	文書の種類、目的の理解	17	紹介状作成
3	医療用語の解釈	18	医療要否意見書作成
4	医療略語、カルテ用語の理解	19	主治医意見書作成
5	診断書作成	20	自動車損害賠償責任保険診断書
6	傷害保険診断書作成	21	死亡診断書作成
7	入院診療計画書作成	22	出産手当支給申請書作成
8	手術説明同意書作成	23	出生証明書作成
9	退院療養計画書作成	24	出産育児一時金作成
10	退院証明書作成	25	出席停止証明書作成
11	検査手術同意書作成	26	登校許可証明書作成
12	入院・手術証明書作成	27	各公費申請書作成
13	通院証明書作成	28	各公費申請書作成
14	健康保険傷病手当金支給申請書作成	29	地方自治体助成申請書作成
15	処方せん作成	30	まとめ 実務への活用について

成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 70%</li> <li>提出物 30%</li> </ul>
教科書	なし プリント対応
参考書	医師事務作業補助者演習問題集、
備考	

科目名			担当者	
調剤報酬			齋藤 英輝	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義	30 時間	選択 2 単位	有

授業の目的と到達目標	調剤報酬の基礎を理解し、レセプト作成能力を得る。 授業は調剤報酬点数表の講義と演習（講師作成のプリント）の併用で理解を深める。 授業終了時は調剤に関する資格を取得し、調剤薬局に就職した際の即戦力となる人材育成を目標とする。 ※医療機関において医事関連業務、診療情報管理業務の経験を持つ教員が調剤報酬に関する授業を行う。
授業の概要 達成課題	医薬分業や保険調剤について説明し保険薬局の基礎知識を得る。 さらに調剤報酬点数表により、調剤レセプトの作成を行う。 保険薬局での即戦力となる育成を行う。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第 1 週 投薬に関する用語 倍散、水溶液確認
- 第 2 週 調剤基本料（受付回数理解を中心に）
- 第 3 週 調剤料（内服薬、内服用滴剤、一包化加算）
- 第 4 週 調剤料（嚥下困難者用製剤加算、頓服、注射、外用）
- 第 5 週 調剤料（麻薬、時間外等加算、自家製剤加算）
- 第 6 週 調剤料（計量混合調剤加算）（後発）
- 第 7 週 薬剤服用歴管理指導料、重複投薬相互作用防止加算
- 第 8 週 薬剤情報提供料、長期投薬情報提供料
- 第 9 週 医薬品品質情報提供料、在宅患者訪問薬剤管理指導料
- 第 10 週 調剤情報提供料、服薬情報提供料、特定保険医療材料
- 第 11 週 調剤レセプト作成
- 第 12 週 調剤レセプト作成
- 第 13 週 調剤レセプト作成
- 第 14 週 調剤レセプト作成
- 第 15 週 調剤レセプト作成

成績評価方法	定期試験による評価
教科書	調剤報酬テキスト(調剤報酬請求事務専門士協会)
参考書	
備考	教科書、電卓を持参すること

科目名			担当者	
介護福祉演習（手話・点字を含む）			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	演習	30 時間	選択 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>社会で介護支援が必要な人たちと共生し、また、支援していくうえで必要な視点及び知識を身に着けることを目的とする。</p> <p>自分と他者の違いを理解し、介護支援が必要な人たちの個々に応じて働きかけていく大切さを知る。</p> <p>※介護福祉士として対人援助の経験を有する教員が生活支援技術の演習授業を担当する。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>介護支援を行う上で基本となる、コミュニケーションスキルを演習授業により、身に着ける。コミュニケーションスキルを学習した上で、介護支援を経験しながら支援方法及び支援するときに配慮すべきことを学ぶ。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
	<p>第 1 週 全体ガイダンス、介護支援の必要な方々への配慮</p> <p>第 2 週 コミュニケーション</p> <p>第 3 週 聴く、</p> <p>第 4 週 承認</p> <p>第 5 週 信頼関係</p> <p>第 6 週 タイプ分け</p> <p>第 7 週 質問</p> <p>第 8 週 質問</p> <p>第 9 週 フィードバック</p> <p>第 10 週 優位間隔</p> <p>第 11 週 自己理解</p> <p>第 12 週 ストレスコントロール</p> <p>第 13 週 強み</p> <p>第 14 週 目標設定とアフメーション</p> <p>第 15 週 まとめ</p>	<p>第 16 週 演習計画（車いす）</p> <p>第 17 週 演習（車いす）</p> <p>第 18 週 演習計画（階段など高低差のある場所）</p> <p>第 19 週 演習（階段など高低差のある場所）</p> <p>第 20 週 演習計画（視覚障害者への支援）</p> <p>第 21 週 演習（視覚障害者への支援）</p> <p>第 22 週 演習（視覚障害者への支援）</p> <p>第 23 週 演習計画（聴覚障害者への支援）</p> <p>第 24 週 演習（聴覚障害者への支援）</p> <p>第 25 週 演習（聴覚障害者への支援）</p> <p>第 26 週 演習計画（食事介助）</p> <p>第 27 週 演習（食事介助）</p> <p>第 28 週 演習（食事介助）</p> <p>第 29 週 介護支援における必要な配慮の考察</p> <p>第 30 週 まとめ</p>		
成績評価方法	<p>授業内の実技試験および小テスト 50%</p> <p>テスト 50%</p>			
教科書	なし			
参考書	適宜、プリント等を使用する。			
備考	<p>支援する側の経験及び支援される側の両方の経験を通じて、介護支援を行う上で大切な部分についても学ぶ。コミュニケーションスタイルの違いによる働きかけ方の違いを学び、自分と違うタイプの人と関わるうえで大切なことを学ぶ。</p>			

科目名			担当者	
コーディング基礎演習			佐々木 恵美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	演習	120 時間	選択 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>国際疾病分類 (ICD-10) の知識は、医療機関における診療情報管理業務だけではなく、診療報酬請求業務においても、重要なものとなっている。</p> <p>前期は、国際疾病分類 (ICD-10) の分類体系と各章の特徴、コーディングの基本について学ぶ。後期は、前期で学んだ基礎知識を踏まえ、より実践的な演習を行い国際疾病分類についての理解を深める。</p> <p>※診療情報管理士の資格を持ち、医療機関で勤務経験のある教員がコーディングについて指導を行う。</p>																																																															
授業の概要達成課題	<p><b>【授業の概要】</b> 国際疾病分類の分類体系、各章の特徴、主要病態の再選択ルール、原死因の選択ルールを扱う。</p> <p><b>【達成目標】</b> 分類体系を理解する。各章の特徴を理解する。原死因を適切に選択できる。ICD-10 の内容例示表と索引表を適切に使用できる。</p>																																																															
【各回のテーマ・内容・授業方法】	<table border="0"> <tbody> <tr> <td>第 1 週</td> <td>国際疾病分類の基本/消化器系の疾患</td> <td>第 16 週</td> <td>複合病態分類/原死因①</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>複数病態分類、複合病態分類、二重分類/ 内容例示表・索引表の表示記号、符号</td> <td>第 17 週</td> <td>原死因②/中間総括・小テスト</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>感染症・寄生虫症、特殊目的用コード/新生物</td> <td>第 18 週</td> <td>損傷、中毒、その他の外因の影響、外因/ 多発損傷のコーディング</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>血液・造血器疾患、免疫機構の障害/ 内分泌、栄養、代謝疾患</td> <td>第 19 週</td> <td>中間総括・小テスト/ 感染症・寄生虫症、特殊目的用コード</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>中間総括・小テスト/精神および行動の障害</td> <td>第 20 週</td> <td>新生物/血液・造血器の疾患、免疫機構の障害</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>神経系の疾患/眼・付属器の疾患、耳・乳様突起の疾患</td> <td>第 21 週</td> <td>内分泌、栄養および代謝疾患/中間総括・小テスト</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>循環器系の疾患/中間総括・小テスト</td> <td>第 22 週</td> <td>主要病態/精神および行動の障害、神経系の疾患</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>呼吸器系の疾患/皮膚、皮下組織の疾患</td> <td>第 23 週</td> <td>眼・付属器の疾患、耳・乳様突起の疾患/ 循環器系の疾患</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>筋骨格系、結合組織の疾患/腎尿路生殖器系の疾患</td> <td>第 24 週</td> <td>中間総括・小テスト/ 呼吸器系の疾患、消化器系の疾患</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>中間総括・小テスト/ 損傷、中毒およびその他の外因の影響</td> <td>第 25 週</td> <td>皮膚・皮下組織疾患、腎尿路生殖器系の疾患/ 筋骨格系、結合組織の疾患</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>傷病および死亡の外因/中間総括・小テスト</td> <td>第 26 週</td> <td>中間総括・小テスト/妊娠、分娩および産褥</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>妊娠、分娩および産褥/周産期に発生した病態</td> <td>第 27 週</td> <td>周産期に発生した病態/ 先天奇形、変形および染色体異常</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>先天奇形、変形および染色体異常/中間総括・小テスト</td> <td>第 28 週</td> <td>中間総括・小テスト/ 手術および処置の分類 (ICD-9-CM) ①</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>症状、徴候、異常臨床所見・異常検査所見/ 健康状態に影響をする要因・保健サービスの利用</td> <td>第 29 週</td> <td>手術および処置の分類 (ICD-9-CM) ②/ 症状、徴候、異常臨床所見・異常検査所見</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>中間総括・小テスト/前期テスト</td> <td>第 30 週</td> <td>健康状態に影響をする要因・保健サービスの利用/ 後期テスト</td> </tr> </tbody> </table>				第 1 週	国際疾病分類の基本/消化器系の疾患	第 16 週	複合病態分類/原死因①	第 2 週	複数病態分類、複合病態分類、二重分類/ 内容例示表・索引表の表示記号、符号	第 17 週	原死因②/中間総括・小テスト	第 3 週	感染症・寄生虫症、特殊目的用コード/新生物	第 18 週	損傷、中毒、その他の外因の影響、外因/ 多発損傷のコーディング	第 4 週	血液・造血器疾患、免疫機構の障害/ 内分泌、栄養、代謝疾患	第 19 週	中間総括・小テスト/ 感染症・寄生虫症、特殊目的用コード	第 5 週	中間総括・小テスト/精神および行動の障害	第 20 週	新生物/血液・造血器の疾患、免疫機構の障害	第 6 週	神経系の疾患/眼・付属器の疾患、耳・乳様突起の疾患	第 21 週	内分泌、栄養および代謝疾患/中間総括・小テスト	第 7 週	循環器系の疾患/中間総括・小テスト	第 22 週	主要病態/精神および行動の障害、神経系の疾患	第 8 週	呼吸器系の疾患/皮膚、皮下組織の疾患	第 23 週	眼・付属器の疾患、耳・乳様突起の疾患/ 循環器系の疾患	第 9 週	筋骨格系、結合組織の疾患/腎尿路生殖器系の疾患	第 24 週	中間総括・小テスト/ 呼吸器系の疾患、消化器系の疾患	第 10 週	中間総括・小テスト/ 損傷、中毒およびその他の外因の影響	第 25 週	皮膚・皮下組織疾患、腎尿路生殖器系の疾患/ 筋骨格系、結合組織の疾患	第 11 週	傷病および死亡の外因/中間総括・小テスト	第 26 週	中間総括・小テスト/妊娠、分娩および産褥	第 12 週	妊娠、分娩および産褥/周産期に発生した病態	第 27 週	周産期に発生した病態/ 先天奇形、変形および染色体異常	第 13 週	先天奇形、変形および染色体異常/中間総括・小テスト	第 28 週	中間総括・小テスト/ 手術および処置の分類 (ICD-9-CM) ①	第 14 週	症状、徴候、異常臨床所見・異常検査所見/ 健康状態に影響をする要因・保健サービスの利用	第 29 週	手術および処置の分類 (ICD-9-CM) ②/ 症状、徴候、異常臨床所見・異常検査所見	第 15 週	中間総括・小テスト/前期テスト	第 30 週	健康状態に影響をする要因・保健サービスの利用/ 後期テスト
第 1 週	国際疾病分類の基本/消化器系の疾患	第 16 週	複合病態分類/原死因①																																																													
第 2 週	複数病態分類、複合病態分類、二重分類/ 内容例示表・索引表の表示記号、符号	第 17 週	原死因②/中間総括・小テスト																																																													
第 3 週	感染症・寄生虫症、特殊目的用コード/新生物	第 18 週	損傷、中毒、その他の外因の影響、外因/ 多発損傷のコーディング																																																													
第 4 週	血液・造血器疾患、免疫機構の障害/ 内分泌、栄養、代謝疾患	第 19 週	中間総括・小テスト/ 感染症・寄生虫症、特殊目的用コード																																																													
第 5 週	中間総括・小テスト/精神および行動の障害	第 20 週	新生物/血液・造血器の疾患、免疫機構の障害																																																													
第 6 週	神経系の疾患/眼・付属器の疾患、耳・乳様突起の疾患	第 21 週	内分泌、栄養および代謝疾患/中間総括・小テスト																																																													
第 7 週	循環器系の疾患/中間総括・小テスト	第 22 週	主要病態/精神および行動の障害、神経系の疾患																																																													
第 8 週	呼吸器系の疾患/皮膚、皮下組織の疾患	第 23 週	眼・付属器の疾患、耳・乳様突起の疾患/ 循環器系の疾患																																																													
第 9 週	筋骨格系、結合組織の疾患/腎尿路生殖器系の疾患	第 24 週	中間総括・小テスト/ 呼吸器系の疾患、消化器系の疾患																																																													
第 10 週	中間総括・小テスト/ 損傷、中毒およびその他の外因の影響	第 25 週	皮膚・皮下組織疾患、腎尿路生殖器系の疾患/ 筋骨格系、結合組織の疾患																																																													
第 11 週	傷病および死亡の外因/中間総括・小テスト	第 26 週	中間総括・小テスト/妊娠、分娩および産褥																																																													
第 12 週	妊娠、分娩および産褥/周産期に発生した病態	第 27 週	周産期に発生した病態/ 先天奇形、変形および染色体異常																																																													
第 13 週	先天奇形、変形および染色体異常/中間総括・小テスト	第 28 週	中間総括・小テスト/ 手術および処置の分類 (ICD-9-CM) ①																																																													
第 14 週	症状、徴候、異常臨床所見・異常検査所見/ 健康状態に影響をする要因・保健サービスの利用	第 29 週	手術および処置の分類 (ICD-9-CM) ②/ 症状、徴候、異常臨床所見・異常検査所見																																																													
第 15 週	中間総括・小テスト/前期テスト	第 30 週	健康状態に影響をする要因・保健サービスの利用/ 後期テスト																																																													
成績評価方法	テストによる評価																																																															
教科書	・診療情報管理Ⅲ (第 12 章 国際統計分類Ⅱ)																																																															
参考書	<p>・疾病、傷害および死因の統計分類提要 ICD-10 (2013 年版) 準拠 第 2 巻 総論 (厚生労働統計協会)</p> <p>・新人診療情報管理士と医事職員のためのコーディング寺子屋 (経営書院)</p> <p>・ICD コーディングトレーニング第 2 版 (医学書院)</p> <p>・診療情報管理パーフェクトガイド (医学通信社)</p>																																																															
備考	<p><b>【準備物】</b> 診療情報管理Ⅲ、ICD-10 第 1 巻第 3 巻、ファイル</p>																																																															

科目名			担当者	
医学用語			阿部 忠義	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・後期	講義	60 時間	選択 4 単位	有

授業の目的と到達目標	病名、病態、医療行為（検査法、手術法）の歴史、原則、概念を学ぶ。 上記のことを人体の生理、臨床と関連づけながら総合的に学ぶ。  ※医療機関に医師として勤務する教員が医学用語に関する授業を行う。
授業の概要 達成課題	1 年次に履修した医学用語に関する復習、用語に関する理解を深め、この後履修する分類法の修得や診療情報管理士認定試験の合格に結びつける。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	1 年次の復習①	第 16 週	前期の復習
第 2 週	1 年次の復習②	第 17 週	代謝・内分泌系用語①
第 3 週	造語の基本、接頭後、接尾語①	第 18 週	代謝・内分泌系用語②
第 4 週	造語の基本、接頭後、接尾語②	第 19 週	代謝・内分泌系用語③
第 5 週	造語の基本、接頭後、接尾語③	第 20 週	神経・感覚器系用語①
第 6 週	循環器系用語①	第 21 週	神経・感覚器系用語②
第 7 週	循環器系用語②	第 22 週	神経・感覚器系用語③
第 8 週	循環器系用語③	第 23 週	骨格系用語①
第 9 週	呼吸器系用語①	第 24 週	骨格系用語②
第 10 週	呼吸器系用語②	第 25 週	骨格系用語③
第 11 週	呼吸器系用語③	第 26 週	皮膚・感染・寄生虫系用語①
第 12 週	消化器系用語①	第 27 週	皮膚・感染・寄生虫系用語②
第 13 週	消化器系用語②	第 28 週	皮膚・感染・寄生虫系用語③
第 14 週	消化器系用語③	第 29 週	皮膚・感染・寄生虫系用語④
第 15 週	前期まとめ	第 30 週	後期まとめ

成績評価方法	試験による評価
教科書	診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅱ 基礎・医学用語編」 日本病院会
参考書	診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編」 日本病院会
備考	日本病院会「医学用語」科目に対応

科目名			担当者	
医療概論			松永 拓	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義	30 時間	選択 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>医学の定義、医学の起源、古代から現代にいたるまでのわが国の医学や医療の歴史について理解を深める。社会保障制度や医療制度、医療法と医療計画など地域保健や公衆衛生について学ぶ。</p> <p>※医師免許を有し、医療機関に勤務経のある教員が講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>医学の歴史、医の倫理、社会保障制度や医療制度を学び、診療情報管理士認定試験の合格に結びつける。</p>
<p><b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>第 1 週 医学・人間の生命に関わる科学            第 2 週 医学・医療の分化と統合①            第 3 週 医学・医療の分化と統合②            第 4 週 1～3 週目のまとめ            第 5 週 医学の起源            第 6 週 古代の医学            第 7 週 中世の医学            第 8 週 近世の医学            第 9 週 二十世紀の医学①            第 10 週 二十世紀の医学②            第 11 週 我が国の医学と医療の歴史①            第 12 週 我が国の医学と医療の歴史②            第 13 週 現代医療①            第 14 週 現代医療②            第 15 週 前期まとめ</p>	
成績評価方法	<p>テストによる評価</p>
教科書	<p>診療情報管理士テキスト「診療情報管理 I 基礎・医学編」 日本病院会</p>
参考書	
備考	<p>日本病院会「医療概論」科目に対応</p>

科目名			担当者	
臨床医学各論 I			阿部 忠義	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義	60 時間	選択 4 単位	有

授業の目的と到達目標	臨床医学に必要な基礎を理解するとともに、臨床的に主要な疾病のうち、新生物、血液疾患（代謝・内分泌含む）についての原因、症状、診断に必要な検査法と治療法について学ぶ。 ※医療機関に医師として勤務する教員が、臨床的に主要な疾病に関する授業を行う。
授業の概要達成課題	1 年次に履修した臨床医学に関する復習、さらに新生物および血液疾患を学び、この後履修する分類法の修得や診療情報管理士認定試験の合格に結びつける。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	新生物とは、新生物の分類	第 16 週	前期の復習
第 2 週	悪性新生物①	第 17 週	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害④
第 3 週	悪性新生物②	第 18 週	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害⑤
第 4 週	悪性新生物③	第 19 週	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害⑥
第 5 週	悪性新生物④	第 20 週	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害⑦
第 6 週	悪性新生物⑤	第 21 週	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害⑧
第 7 週	悪性新生物⑥	第 22 週	内分泌、ホルモン等の基礎
第 8 週	悪性新生物⑦	第 23 週	内分泌、栄養および代謝疾患①
第 9 週	悪性新生物⑧	第 24 週	内分泌、栄養および代謝疾患②
第 10 週	悪性新生物⑨	第 25 週	内分泌、栄養および代謝疾患③
第 11 週	血液に関する基礎	第 26 週	内分泌、栄養および代謝疾患④
第 12 週	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害①	第 27 週	内分泌、栄養および代謝疾患⑤
第 13 週	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害②	第 28 週	内分泌、栄養および代謝疾患⑥
第 14 週	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害③	第 29 週	内分泌、栄養および代謝疾患⑦
第 15 週	前期まとめ	第 30 週	後期まとめ

成績評価方法	課題レポート 50% 試験 50%
教科書	診療情報管理士テキスト「診療情報管理 I 基礎・医学編」 日本病院会
参考書	
備考	日本病院会「臨床医学各論Ⅱ」科目および「臨床医学各論Ⅲ」科目に対応

科目名			担当者	
臨床医学各論Ⅱ			金山 岳夫	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義	60 時間	選択 4 単位	有

授業の目的と到達目標	臨床医学に必要な基礎を理解するとともに、臨床的に主要な疾病のうち、循環器系、脳神経系(感覚器系含む) について、症状、診断に必要な検査法と治療法について学ぶ。 ※医師免許を持ち医療機関に勤務する教員が、臨床医学について講義する。
授業の概要達成課題	1 年次に履修した臨床医学に関する復習、さらに循環器系、脳神経系、の各疾患を学び、この後履修する分類法の修得や、診療情報管理士認定試験の合格に結びつける。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	1 年次のまとめ・復習 (1)	第 16 週	神経系疾患総論・検査①
第 2 週	1 年次のまとめ・復習 (2)	第 17 週	神経系疾患各論・検査②中枢神経疾患①
第 3 週	1 年次のまとめ・復習 (3)	第 18 週	神経系疾患各論・中枢神経疾患②
第 4 週	循環器系疾患各論・先天性疾患	第 19 週	神経系疾患各論・精神疾患
第 5 週	循環器系疾患各論・虚血性心疾患 (1)	第 20 週	神経系疾患各論・認知症
第 6 週	循環器系疾患各論・虚血性心疾患 (2) 不整脈 (1)	第 21 週	神経系疾患各論・不安障害・解離性障害
第 7 週	循環器系疾患各論・不整脈 (2)	第 22 週	神経系疾患各論・摂食障害・発達障害
第 8 週	循環器系疾患各論・心臓の炎症性疾患	第 23 週	神経系疾患各論・神経筋接合部や筋の疾患①
第 9 週	循環器系疾患各論・心筋症	第 24 週	神経系疾患各論・神経筋接合部や筋の疾患②、多発性神経障害
第 10 週	循環器系疾患各論・高血圧症	第 25 週	神経系疾患各論・末梢神経の疾患
第 11 週	循環器系疾患各論・大動脈疾患	第 26 週	眼・視覚器の疾患 (1)
第 12 週	循環器系疾患各論・末梢動脈疾患	第 27 週	眼・視覚器の疾患 (2)
第 13 週	循環器系疾患各論・静脈疾患	第 28 週	耳・聴覚器の疾患 (1)
第 14 週	脳血管疾患	第 29 週	耳・聴覚器の疾患 (2)
第 15 週	前期まとめ	第 30 週	後期まとめ

成績評価方法	テストによる評価
教科書	診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編」 日本病院会
参考書	
備考	日本病院会「臨床医学各論Ⅳ」科目および「臨床医学各論Ⅴ」科目に対応

科目名			担当者	
臨床医学各論Ⅲ			松永 拓	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義	60 時間	選択 4 単位	有

授業の目的と到達目標	臨床医学に必要な基礎を理解するとともに、臨床的に主要な疾病のうち消化器系（泌尿器系含む）、周産期系についての原因、症状、診断に必要な検査法と治療法について学ぶ。 ※医師免許を持ち、医療機関に勤務経験のある教員が臨床医学について講義する。
授業の概要達成課題	1 年次に履修した臨床医学に関する復習、さらに消化器系、周産期系の各疾患を学び、この後履修する分類法の修得や診療情報管理士認定試験の合格に結びつける。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	消化器系の基礎	第 16 週	前期の復習
第 2 週	消化器系の疾患①	第 17 週	泌尿器系の疾患④
第 3 週	消化器系の疾患②	第 18 週	泌尿器系の疾患⑤
第 4 週	消化器系の疾患③	第 19 週	泌尿器系の疾患⑥
第 5 週	消化器系の疾患④	第 20 週	泌尿器系の疾患⑦
第 6 週	消化器系の疾患⑤	第 21 週	泌尿器系の疾患⑧
第 7 週	消化器系の疾患⑥	第 22 週	周産期の基礎
第 8 週	消化器系の疾患⑦	第 23 週	周産期系の疾患①
第 9 週	消化器系の疾患⑧	第 24 週	周産期系の疾患②
第 10 週	消化器系の疾患⑨	第 25 週	周産期系の疾患③
第 11 週	泌尿器系の基礎	第 26 週	周産期系の疾患④
第 12 週	泌尿器系の疾患①	第 27 週	周産期系の疾患⑤
第 13 週	泌尿器系の疾患②	第 28 週	周産期系の疾患⑥
第 14 週	泌尿器系の疾患③	第 29 週	周産期系の疾患⑦
第 15 週	前期まとめ	第 30 週	後期まとめ

成績評価方法	テストによる評価
教科書	診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編」 日本病院会
参考書	
備考	日本病院会「臨床医学各論Ⅵ」科目および「臨床医学各論Ⅶ」科目に対応

科目名			担当者	
臨床医学総論			阿部 忠義	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義	60 時間	選択 4 単位	有

授業の目的と到達目標	臨床医学に必要な基礎を理解するとともに、臨床的に主要な疾病のうち、外傷学、先天性異常症等について、原因、症状、診断に必要な検査法と治療法について学ぶ。  ※医療機関に医師として勤務する教員が臨床的に主要な疾病に関する授業を行う。
授業の概要達成課題	1 年次に履修した臨床医学に関する復習、さらに外傷学および先天性異常症等を学び、この後履修する分類法の修得や診療情報管理士認定試験の合格に結びつける。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 16 週	前期の復習
第 2 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 17 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 3 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 18 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 4 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 19 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 5 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 20 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 6 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 21 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 7 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 22 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 8 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 23 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 9 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 24 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 10 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 25 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 11 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 26 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 12 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 27 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 13 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 28 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 14 週	先天奇形、変形および染色体異常	第 29 週	損傷、中毒およびその外因の影響
第 15 週	前期まとめ	第 30 週	後期まとめ

成績評価方法	授業の中での課題 50% 試験 50%
教科書	診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編」 日本病院会
参考書	
備考	日本病院会「臨床医学各論Ⅱ」科目および「臨床医学各論Ⅲ」科目に対応

科目名			担当者	
国際疾病分類概論			佐々木 恵美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義	30 時間	選択 2 単位	有

授業の目的と到達目標	国際疾病分類 (ICD) は、わが国において疾病統計、死亡統計など幅広く活用されている。国際疾病分類 (ICD) とは、どのようなもので、どのように活用されているのかを理解する。また、国際疾病分類 (ICD) 以外の国際基準の分類についても理解する。 ※医療機関において診療情報管理士として勤務経験のある教員が、国際疾病分類について講義する。			
授業の概要 達成課題	<b>【授業の概要】</b> 国際疾病分類 (ICD) の概要、国際生活機能分類 (ICF)、国際疾病分類・腫瘍学 (ICD-0)、原死因選択ルール、主要病態の選択ルールについて扱う。 <b>【達成目標】</b> ICD について理解する。ICF について理解する。ICD-0 について理解する。原死因について理解する。主要病態について理解する。			
(各界のテーマ・内容・授業方法)				
第 1 週	国際疾病分類とは	第 16 週	国際疾病分類・腫瘍学 (ICD-0) ①	
第 2 週	わが国の人口動態統計①	第 17 週	国際疾病分類・腫瘍学 (ICD-0) ②	
第 3 週	わが国の人口動態統計②	第 18 週	医療行為の分類 (ICHI) とその他の分類	
第 4 週	国際疾病分類 (ICD) の歴史①	第 19 週	中間総括・小テスト	
第 5 週	国際疾病分類 (ICD) の歴史②	第 20 週	原死因選択ルール① (死因の定義と死亡診断書)	
第 6 週	国際疾病分類 (ICD) の現状①	第 21 週	原死因選択ルール② (一般原則)	
第 7 週	国際疾病分類 (ICD) の現状②	第 22 週	原死因選択ルール③ (選択ルール 1~3)	
第 8 週	国際疾病分類 (ICD) の構造①	第 23 週	原死因選択ルール④ (修正ルール A~D)	
第 9 週	国際疾病分類 (ICD) の構造②	第 24 週	中間総括・小テスト	
第 10 週	中間総括・小テスト	第 25 週	主要病態の選択ルール①	
第 11 週	国際統計分類ファミリー	第 26 週	主要病態の選択ルール②	
第 12 週	国際生活機能分類 (ICF) ①	第 27 週	主要病態の選択ルール③	
第 13 週	国際生活機能分類 (ICF) ②	第 28 週	中間総括・小テスト	
第 14 週	中間総括・小テスト	第 29 週	DPC と国際疾病分類 (ICD)	
第 15 週	前期テスト	第 30 週	後期テスト	
成績評価方法	テストによる評価			
教科書	・診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅲ」 日本病院会 (第 11 章 国際統計分類 I)			
参考書	・疾病、傷害および死因の統計分類提要 ICD-10(2013 年版) 準拠 第 2 巻 総論 (厚生労働統計協会) ・診療情報管理士の実務 Q&A ((株)じほう 日本診療情報管理士会編集) ・公衆衛生がみえる 2018-2019 ((株)メディックメディア)			
備考	<b>【準備物】</b> 診療情報管理Ⅲ、ファイル			

科目名			担当者	
医療情報学			宇川 雅晴	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	あり

授業の目的と到達目標	<p>診療情報管理士に求められる ICT を活用した有効かつ確かな診療情報管理の能力を習得することを目的とし、診療情報管理士認定試験の合格を目指す。</p> <p>※情報機器メーカーの設計開発部門で勤務経験ある教員が、医療情報学に関する授業を行う。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>診療情報管理士の資格取得に必要なとなる知識として、医療情報の概念、技術・理論（医療情報の標準化、医療情報倫理、地域医療情報システム、病院管理、医療データの利活用）等について学ぶ。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	医療情報の種類と特性	第 16 週	放射線情報システム	
第 2 週	医療情報システムの特性	第 17 週	物品管理システム	
第 3 週	医療情報システム発展の経緯と現状	第 18 週	地域医療連携システム	
第 4 週	オーダエントリシステム	第 19 週	介護保険制度と関連システム	
第 5 週	電子カルテシステムの機能	第 20 週	遠隔医療	
第 6 週	看護系システム	第 21 週	調剤薬局システム	
第 7 週	診療支援機能と予約機能	第 22 週	医療情報の標準化	
第 8 週	電子カルテシステムの実践	第 23 週	病院管理	
第 9 週	システム管理	第 24 週	安全管理	
第 10 週	電子カルテシステムの展開	第 25 週	データウェアハウス	
第 11 週	医事システムの機能	第 26 週	情報視覚化	
第 12 週	レセプト電算処理システム	第 27 週	データヘルス計画とレセプトデータベース	
第 13 週	臨床検査システム	第 28 週	保健統計調査	
第 14 週	薬剤システム	第 29 週	地域の健康課題の分析	
第 15 週	病歴システム	第 30 週	診療情報管理士試験問題研究	
成績評価方法	定期試験			
教科書	「診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ」一般社団法人日本病院会			
参考書				
備考				

科目名			担当者	
診療情報管理実習 I			津田 真彦	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・後期	実習	90 時間	選択 2 単位	無

授業の目的 と 到達目標	学校で学んだ知識や理論を基に、実際に病院で行われている医療がどのような仕組みのもとに行われているか、診療や業務等病院全体の流れの中で各部門がいかに関与し、連携しているのか、特にその中でも診療情報管理士の役割・責務等を、実践的な体験を通して把握することを目的とする。
授業の概要 達成 課題	宮城県内の病院における実習を約 10 日間行う。カルテ管理や DPC 業務などを経験し、カルテの流れや診療情報管理室と他部署の連携も理解しながら、病院現場の実務を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
【実習内容例】	
1 日目 院内見学 カルテ庫実習	
2 日目 診療情報管理士業務実習	
3 日目 診療情報管理士業務実習	
4 日目 診療情報管理士業務実習	
5 日目 診療情報管理士業務実習	
6 日目 診療情報管理士業務実習	
7 日目 診療情報管理士業務実習	
8 日目 診療情報管理士業務実習	
9 日目 診療情報管理士業務実習	
10 日目 診療情報管理士業務実習	
成績評価方法	提出物・医療機関からの評価に基づく総合評価
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
病院実習応用			津田 真彦	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・後期	実習	90 時間	選択 2 単位	無

授業の目的 と 到達目標	学校で学んだ知識や理論を基に、実際に病院で行われている医療がどのような仕組みのもとに行われているか、診療や業務等病院全体の流れの中で各部門がいかに関与し、連携しているのか、特にその中でも医療事務の役割・責務等を、実践的な体験を通して把握することを目的とする。
授業の概要 達成課題	2 週間の病院実習を行う。窓口での患者対応やカルテの運搬、会計などを経験し、医療事務の流れや医事課と他部署の連携も理解しながら病院現場の実務を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
【実習内容例】	
1 日目 院内見学 カルテ庫実習	
2 日目 受付業務実習	
3 日目 薬剤科実習	
4 日目 総務課実習	
5 日目 受付業務実習	
6 日目 受付業務実習	
7 日目 病名登録実習	
8 日目 カルテ庫実習	
9 日目 会計業務実習	
10 日目 入院病棟関連業務	
成績評価方法	提出物・医療機関からの評価表に基づく総合評価
教科書	
参考書	
備考	※選択科目である